

2023年度

製造業の実態及び次世代産業への進出に関する調査
報告書

2024年3月

姫路商工会議所 姫路経済研究所

目次

I. 調査概要

1. 調査概要	1
2. 回答事業所の属性	2
3. 回答事業所の業績	3

II. 調査結果

1. 最終的に使用される製品	4
2. 提供する製品・サービスの主な分野	5
3. 貴社の手掛ける機能	6
4. 技術分野	7
5. 顧客に対する強み	8
6. 出荷先や外注先の地域	9
7. 過去5年間の出荷先数の変化	10
8. 出荷先が変化した主な理由	11
9. 過去5年間の外注先数の変化	12
10. 外注先が変化した主な理由	12
11. 顧客向け製品における企画・開発の関与	13
12. この5年間の主な取り組み	13
13. 受賞した表彰制度や取得した認証制度	14
14. 新技術や新製品、新分野進出などの実績と今後の見通し	15
15. 「新しい技術の開発・導入」「新製品の開発」にあたっての課題	16
16. 「新しい分野への進出」	17
17. 他の企業・団体との連携状況	18
18. デジタル技術活用	20
19. 姫路市の操業環境	21
20. 緊急時の対応を想定したBCP	22
21. 今後の施設・土地利用の意向	24
22. 事業活動において課題とを感じる分野	25
23. ものづくりに関する必要な支援策	25
24. ものづくりに関する相談先	26
25. ものづくりに関する支援制度等	26

Ⅲ. まとめ

1. 人材不足の傾向が顕著	27
2. 土地の不足が事業所の市外移転の主な要因.....	27
3. 産業構造や成長産業に関する情報発信.....	27
4. 外部との連携促進	27
5. デジタル技術の活用促進	27
6. 販路開拓の取り組み支援	27
7. 支援施策等の認知度の向上	28

(参考資料)

調査票

I. 調査概要

1. 調査概要

(1) 調査目的

ものづくりのまちを支える製造業の実態および次世代産業への取り組み状況について調査し、当所の製造業支援に活用するとともに、関連する施策の周知を行う。

(2) 調査対象

姫路市内 1, 040事業所（姫路商工会議所・姫路市商工会の会員企業）

(3) 調査期間

2024年2月2日～2024年2月22日

(4) 調査方法

対象事業所へアンケート調査票を送付し、集計・分析した。

(5) 回答状況

- ・ 発送数：1, 040事業所
- ・ 回答数：247事業所
- ・ 回答率：23.8%

(6) 調査結果の見方

- ・ 集計上の数値の取り扱い

集計は小数第二位を四捨五入しているため、数値の合計が100%にならない場合がある。

- ・ 図表中の記号「n」

当該質問での回答者数のことである。

2. 回答事業所の属性

(1) 産業分類（中分類）別

回答を得た企業のうち、「金属製品」が55社（22.3%）で最も多く、続いて「食料品」の27社（10.9%）、「鉄鋼業」の21社（8.5%）、「電気機械器具」の17社（6.9%）、「はん用機械器具」の14社（5.7%）と続く。それ以外の業種は構成比が5%未満であり、全体的に様々な業種から回答があった。

業種別／規模別	1～20人	21～50人	51～100人	101～300人	301人～	全体 (n=247)
食料品(n=27)	13 48.1%	5 18.5%	4 14.8%	2 7.4%	3 11.1%	27 10.9%
飲料・たばこ・飼料(n=3)	2 66.7%	1 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 1.2%
繊維工業(n=9)	5 55.6%	2 22.2%	2 22.2%	0 0.0%	0 0.0%	9 3.6%
木材・木製品(n=6)	5 83.3%	1 16.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	6 2.4%
家具・装備品(n=1)	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.4%
パルプ・紙・紙加工品(n=7)	2 28.6%	4 57.1%	0 0.0%	1 14.3%	0 0.0%	7 2.8%
印刷・同関連業(n=11)	7 63.6%	3 27.3%	1 9.1%	0 0.0%	0 0.0%	11 4.5%
化学工業(n=5)	0 0.0%	2 40.0%	1 20.0%	1 20.0%	1 20.0%	5 2.0%
石油製品・石炭製品(n=1)	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.4%
プラスチック製品(n=9)	5 55.6%	2 22.2%	1 11.1%	1 11.1%	0 0.0%	9 3.6%
ゴム製品(n=2)	0 0.0%	0 0.0%	1 50.0%	0 0.0%	1 50.0%	2 0.8%
なめし革・同製品・毛皮(n=12)	11 91.7%	0 0.0%	1 8.3%	0 0.0%	0 0.0%	12 4.9%
窯業・土石製品(n=3)	1 33.3%	0 0.0%	2 66.7%	0 0.0%	0 0.0%	3 1.2%
鉄鋼業(n=21)	12 57.1%	2 9.5%	0 0.0%	3 14.3%	4 19.0%	21 8.5%
非鉄金属(n=3)	3 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 1.2%
金属製品(n=55)	26 47.3%	14 25.5%	11 20.0%	4 7.3%	0 0.0%	55 22.3%
はん用機械器具(n=14)	7 50.0%	6 42.9%	1 7.1%	0 0.0%	0 0.0%	14 5.7%
生産用機械器具(n=11)	7 63.6%	2 18.2%	1 9.1%	1 9.1%	0 0.0%	11 4.5%
業務用機械器具(n=1)	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.4%
電子部品・デバイス(n=3)	0 0.0%	2 66.7%	0 0.0%	0 0.0%	1 33.3%	3 1.2%
電気機械器具(n=17)	6 35.3%	5 29.4%	0 0.0%	3 17.6%	3 17.6%	17 6.9%
情報通信機械器具(n=0)	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
輸送用機械器具(n=6)	1 16.7%	0 0.0%	1 16.7%	2 33.3%	2 33.3%	6 2.4%
その他(n=20)	15 75.0%	2 10.0%	2 10.0%	0 0.0%	1 5.0%	20 8.1%

（２）産業分類（３分類）別

業種を「生活等」「素材」「機械金属」に集約すると、機械金属が48.1%と過半数を占める。

小規模事業所の割合は、「生活等」（63.5%）、「機械金属」（48.1%）、「素材」（35.0%）の順に高い。

※産業分類（３分類）

【生活等】

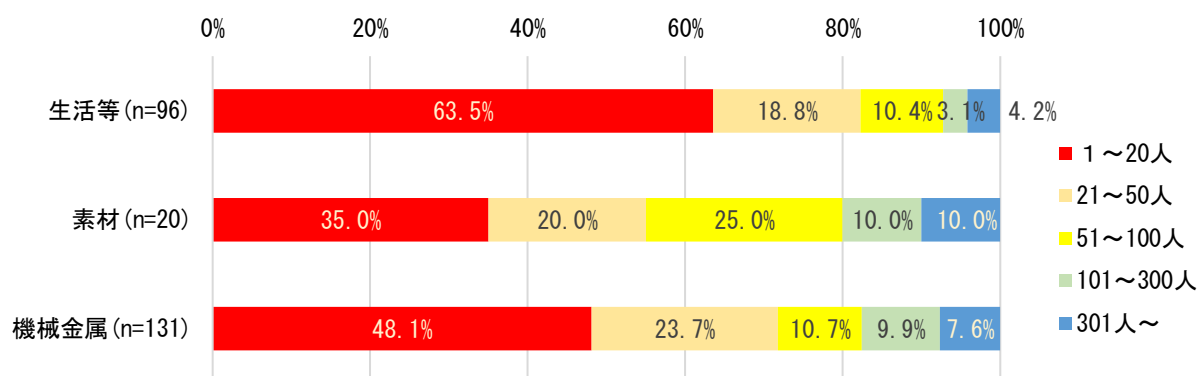
食料品・飲料・たばこ・飼料、繊維工業、木材・木製品、家具・装備品、パルプ・紙・紙加工品、印刷・同関連業、なめし革・同製品・毛皮、その他

【素材】

化学工業、石油製品・石炭製品、プラスチック製品、ゴム製品、窯業・土石製品

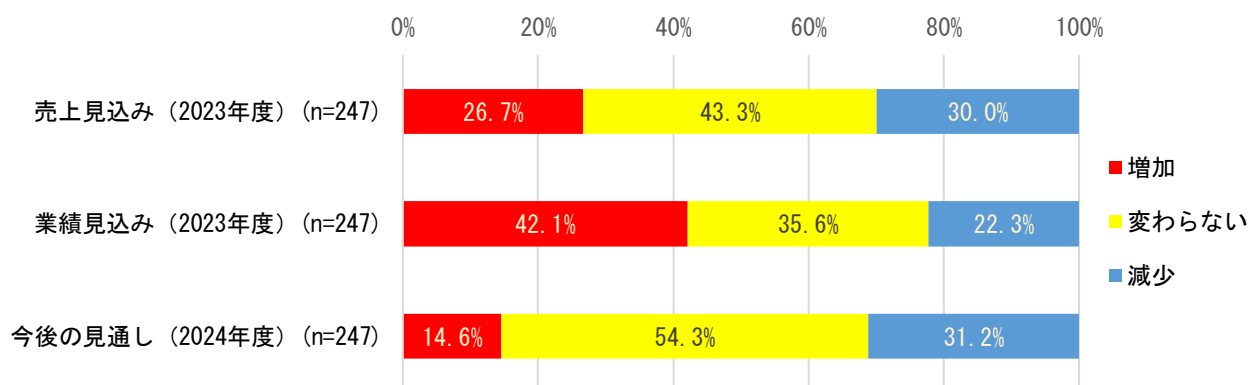
【機械金属】

鉄鋼業、非鉄金属、金属製品、はん用機械器具、生産用機械器具、業務用機械器具、電子部品・デバイス、電気機械器具、情報通信機械器具、輸送用機械器具



3. 回答事業所の業績

売上高は、2023年度は26.7%が増収であるのに対し、2024年度の見通しでは増収が14.6%に減少しており、慎重な見通しがなされている。

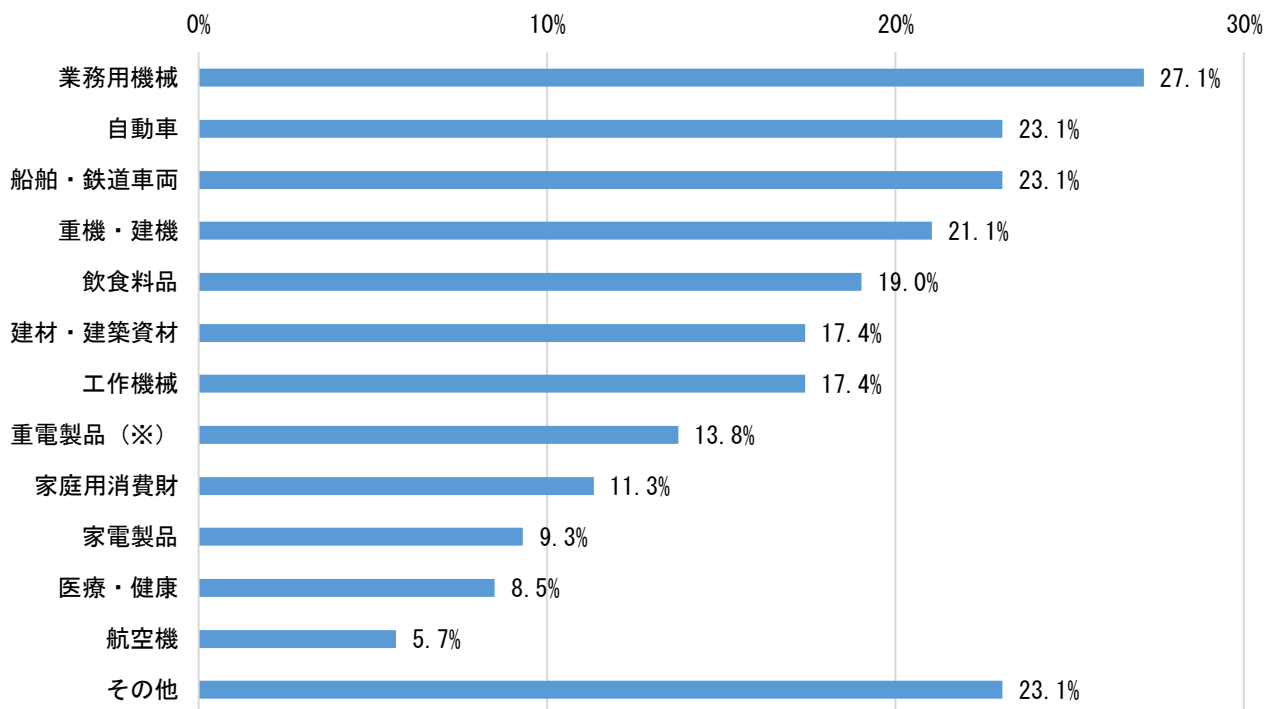


Ⅱ. 調査結果

1. 最終的に使用される製品

最終的に使用されている製品は、「その他」を除くと、「業務用機械」(27.1%)が最も多く、次に「自動車」(23.1%)「船舶・鉄道車両」(23.1%)が同率で多くなっている。「その他」を回答した企業には、ファッションやスポーツ用品、業務用の消費財などが含まれる。

最終的に使用される製品	件数	回答率
業務用機械	67	27.1%
自動車	57	23.1%
船舶・鉄道車両	57	23.1%
重機・建機	52	21.1%
飲食料品	47	19.0%
建材・建築資材	43	17.4%
工作機械	43	17.4%
重電製品(※)	34	13.8%
家庭用消費財	28	11.3%
家電製品	23	9.3%
医療・健康	21	8.5%
航空機	14	5.7%
その他	57	23.1%



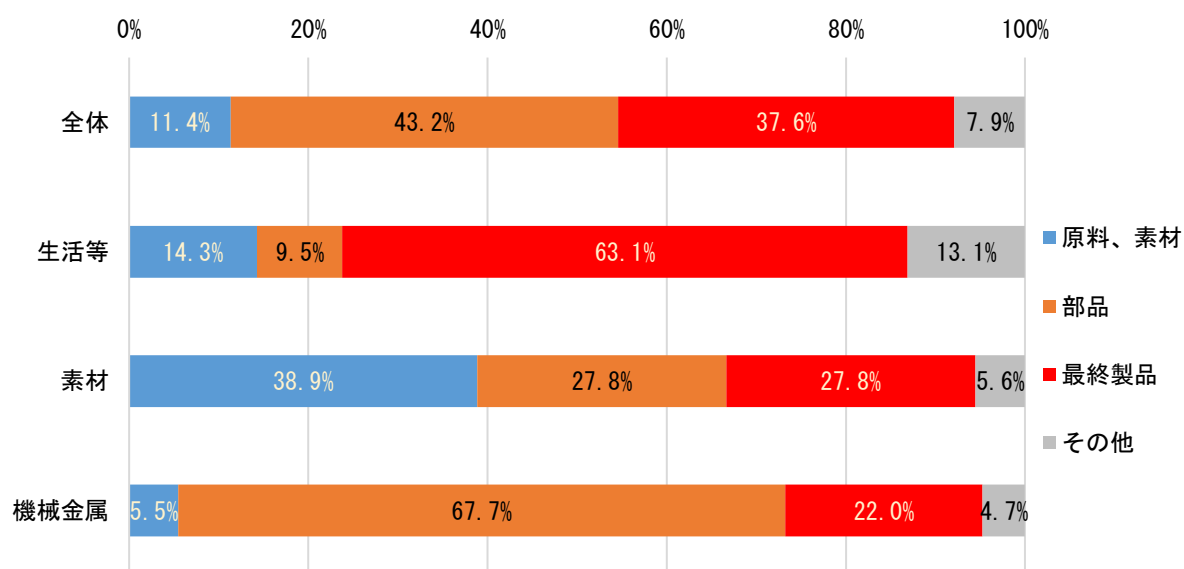
※発電用電動機(ガスタービン、蒸気タービン)、回転電気機械(タービン用発電機)、開閉制御装置(ガス開閉装置、遮断、監視装置)、
静止電気機械器具(変圧器、インバータ)等

2. 提供する製品・サービスの主な分野

全体では、部品（43.2%）が最も多く、最終製品（37.6%）、原料、素材（11.4%）と続く。

産業分類（3分類）別では、機械金属で部品の割合（67.7%）が高い。生活等は最終製品の割合（63.1%）が高い。

	原料、素材	部品	最終製品	その他
全体	26 11.4%	99 43.2%	86 37.6%	18 7.9%
生活等	12 14.3%	8 9.5%	53 63.1%	11 13.1%
素材	7 38.9%	5 27.8%	5 27.8%	1 5.6%
機械金属	7 5.5%	86 67.7%	28 22.0%	6 4.7%



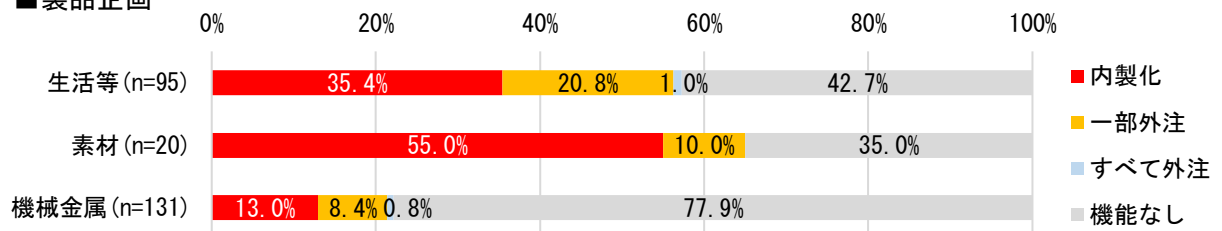
3. 貴社の手掛ける機能

全体では、試作・少量生産が 70.4%と最も多く、続いて量産が 66.4%となっている。

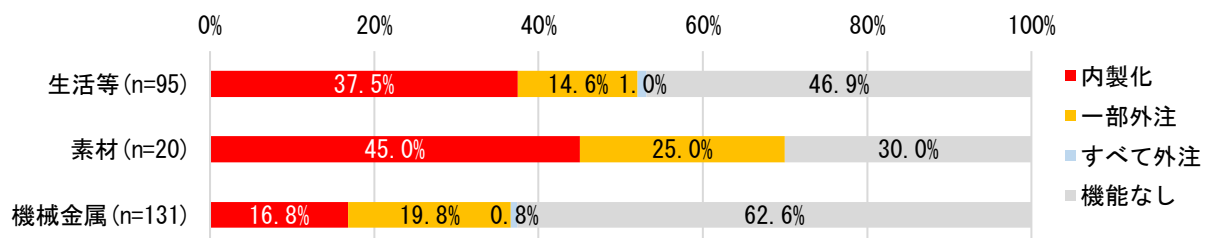
手掛ける機能	①内製化	②一部外注	③すべて外注	機能なし	合計(①～③)	割合
製品企画	62	33	2	150	97	39.3%
開発設計	67	45	2	133	114	46.2%
試作・少量生産	95	78	1	73	174	70.4%
量産	71	86	7	83	164	66.4%
アフターサービス・メンテナンス	55	33	3	156	91	36.8%
その他	12	15	2	218	29	11.7%

機能ごとにみると、「製品企画」の機能では、「生活等」が高く、機械金属は低い。開発設計も同様の傾向がみられる。機械金属の業種の事業所は、下請けや協力業者の割合が高いと推測される。

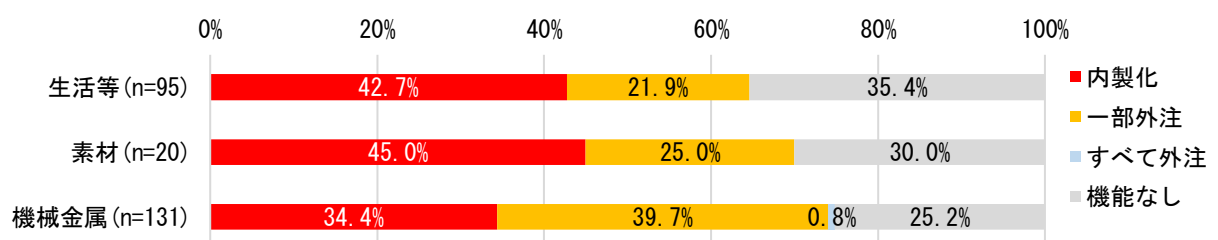
■製品企画



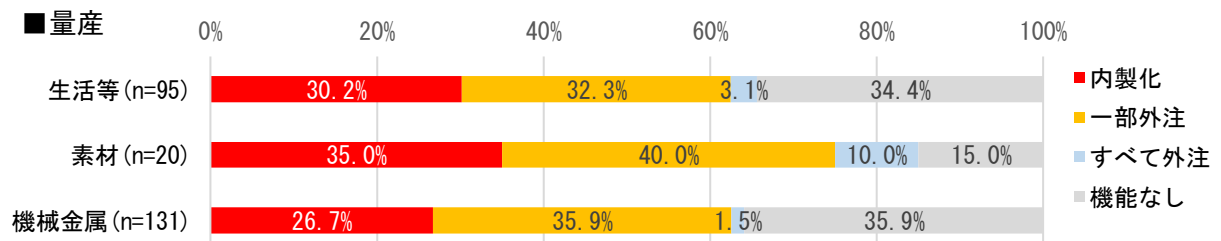
■開発設計



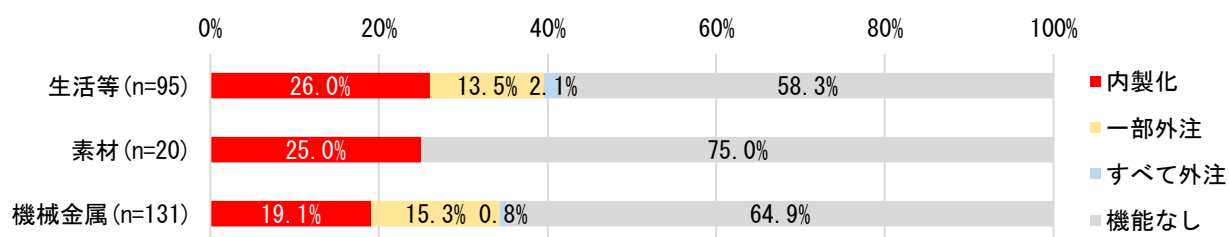
■試作・少量生産



■量産

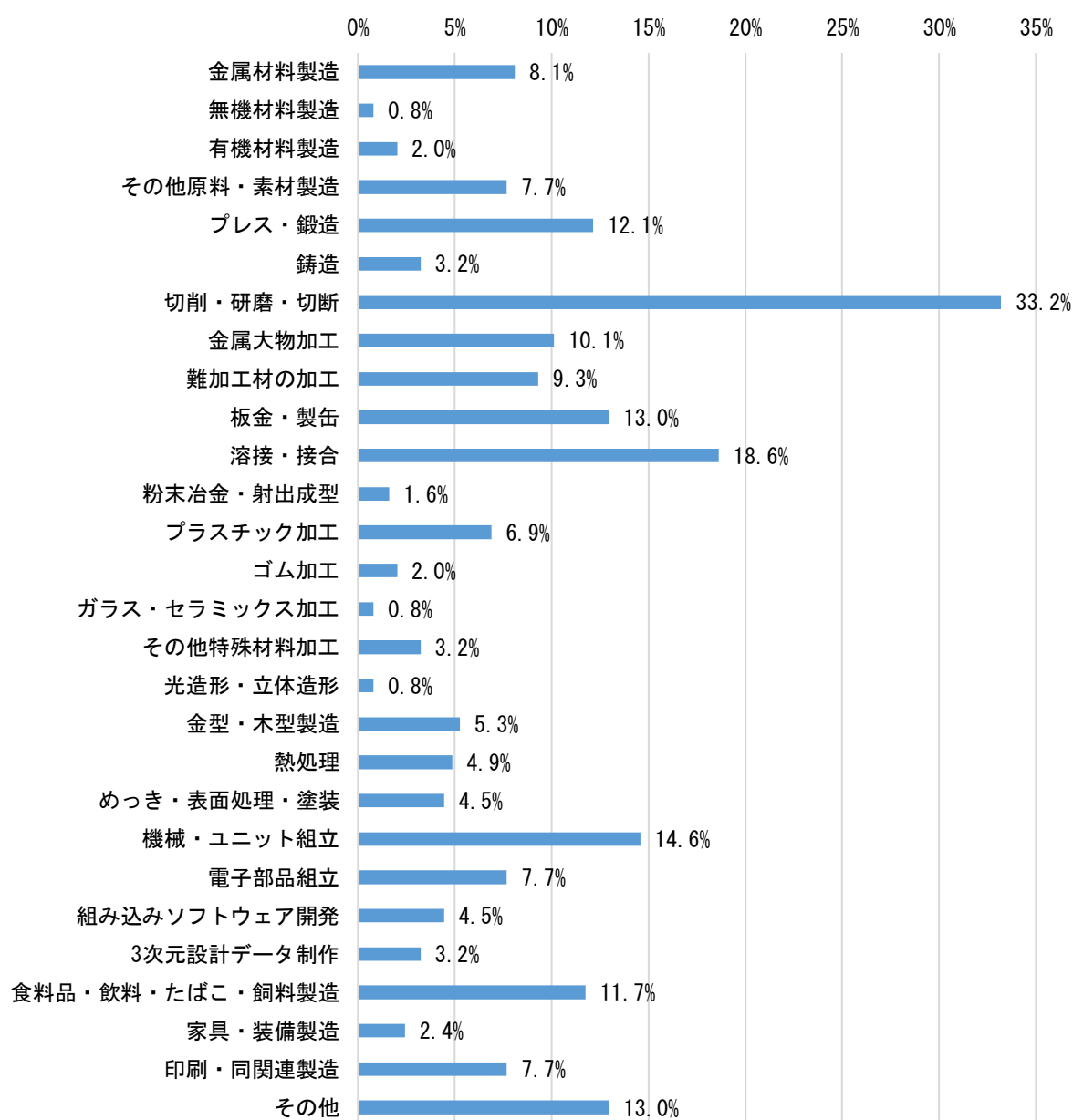


■アフターサービス・メンテナンス



4. 技術分野

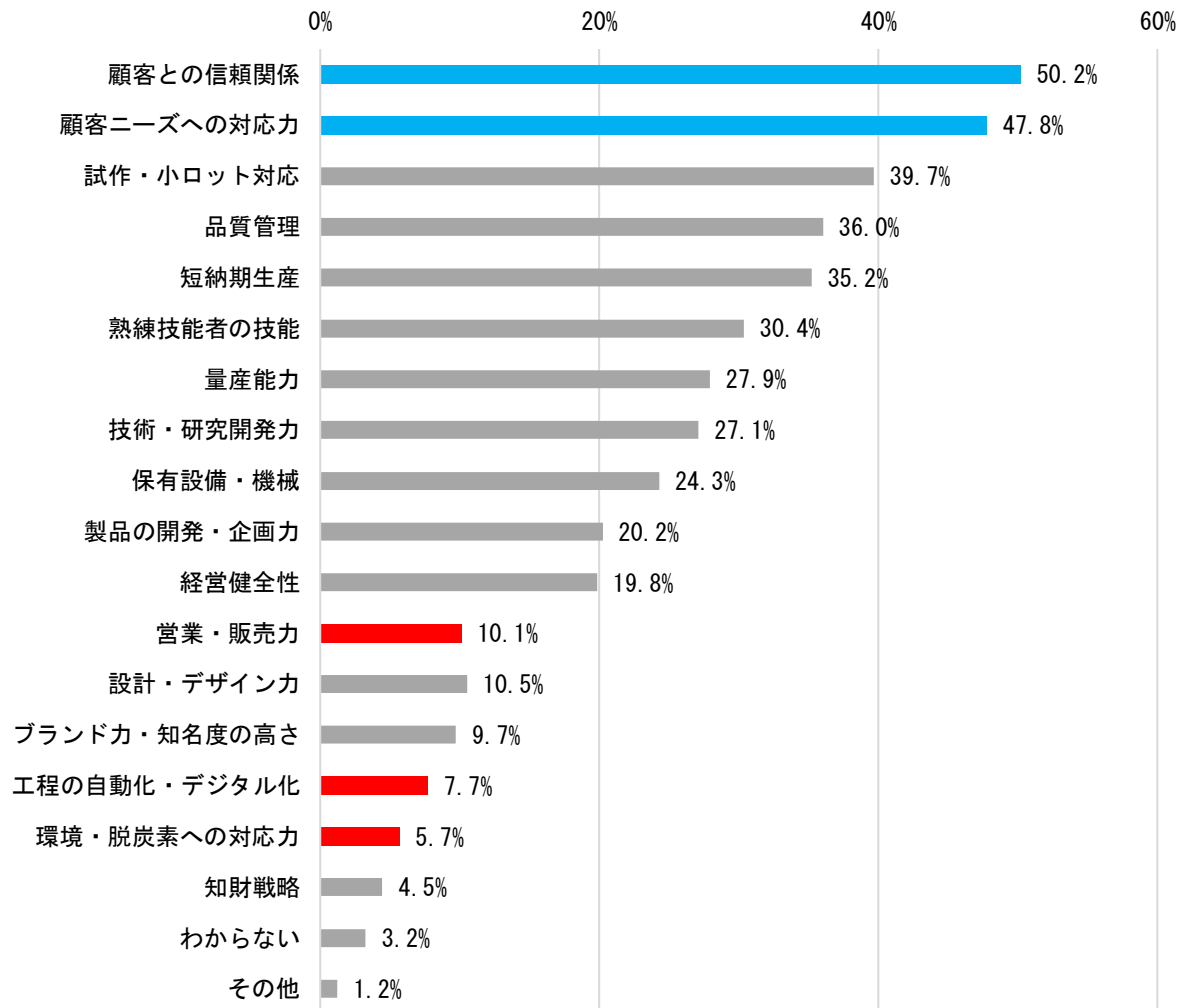
全体では、「切削・研磨・切断」(33.2%)が最も多く、続いて「溶接・接合」(18.6%)、「機械・ユニット組立」(14.6%)が多くなっている。材料製造の分野では、「金属材料製造」(8.1%)が最も多い。



5. 顧客に対する強み

「顧客との信頼関係」(50.2%)が最も高く、つづいて「顧客ニーズへの対応力」(47.8%)が高くなっている。既存顧客と安定的な取引関係が強みと推察される。

一方で、「営業・販売力」、「工程の自動化・デジタル化」、「脱炭素への対応力」の項目が低くなっており、産業構造の変化への対応力に弱みを有する可能性がある。当地主要産業の動向に注視する必要がある。



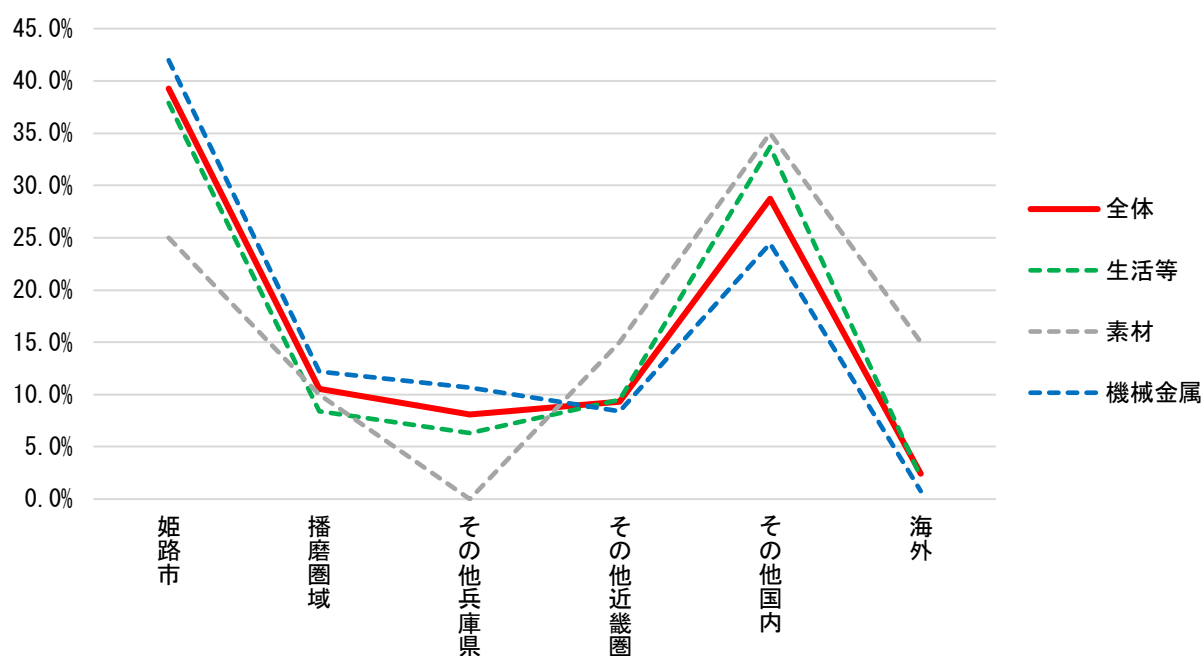
6. 出荷先や外注先の地域

(1) 出荷先

出荷先第1位の所在地をみると、「姫路市」(39.9%)の割合が最も高く、「その他国内」(29.2%)が続いている。「姫路市」「播磨圏域」「その他兵庫県」では58.8%となり、兵庫県内の取引が過半数を占めている。

これを業種別にみると、生活等と素材では、「その他国内」が高い。機械金属では、「姫路市」「播磨圏域」「その他兵庫県」の割合(65.9%)が高く、地元近隣の取引が多いことがみてとれる。

出荷先 第1位	姫路市	播磨圏域	その他 兵庫県	その他 近畿圏	その他 国内	海外
全体 (n=243)	97 39.9%	26 10.7%	20 8.2%	23 9.5%	71 29.2%	6 2.5%
生活等 (n=94)	37 39.4%	8 8.5%	6 6.4%	9 9.6%	32 34.0%	2 2.1%
素材 (n=20)	5 25.0%	2 10.0%	0 0.0%	3 15.0%	7 35.0%	3 15.0%
機械金属 (n=129)	55 42.6%	16 12.4%	14 10.9%	11 8.5%	32 24.8%	1 0.8%

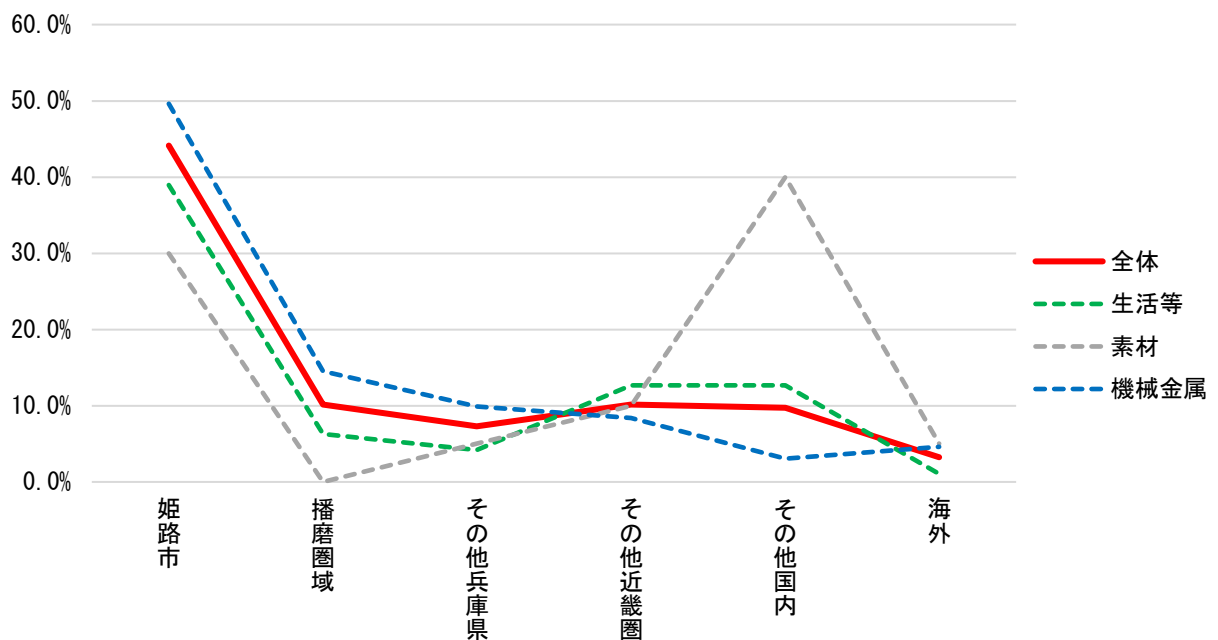


(2) 外注先

外注先第1位の所在地をみると、「姫路市」(52.2%)の割合が最も高く、「播磨圏域」(12.0%)、「その他近畿圏」(12.0%)が続いており、出荷先と比べて近隣の割合が高くなっている。

これを産業分類(3分類)別にみると、素材では、「その他国内」(44.4%)が高くなっている。機械金属では、「姫路市」「播磨圏域」「その他兵庫県」を合計した割合(82.2%)が他の産業分類と比べて高くなっている。

外注先 第1位	姫路市	播磨圏域	その他 兵庫県	その他 近畿圏	その他 国内	海外
全体 (n=209)	109 52.2%	25 12.0%	18 8.6%	25 12.0%	24 11.5%	8 3.8%
生活等 (n=73)	38 52.1%	6 8.2%	4 5.5%	12 16.4%	12 16.4%	1 1.4%
素材 (n=18)	6 33.3%	0 0.0%	1 5.6%	2 11.1%	8 44.4%	1 5.6%
機械金属 (n=118)	65 55.1%	19 16.1%	13 11.0%	11 9.3%	4 3.4%	6 5.1%

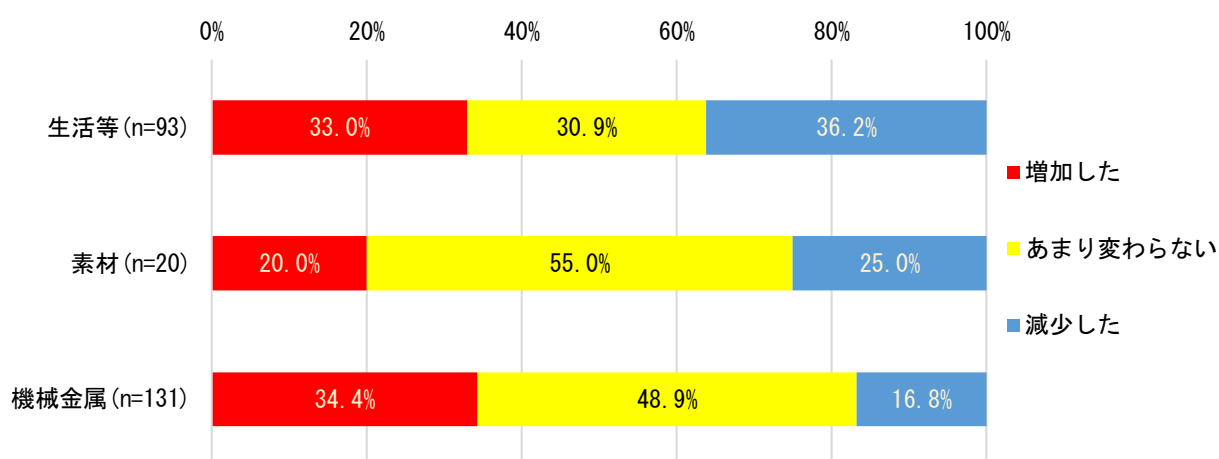


7. 過去5年間の出荷先数の変化

出荷先の変化を産業分類(3分類)別に見ると、「生活等」の分野では「増加した」と「減少した」を合わせると69.2%になり、他の分野と比べて出荷先数が変化した割合が高くなっている。

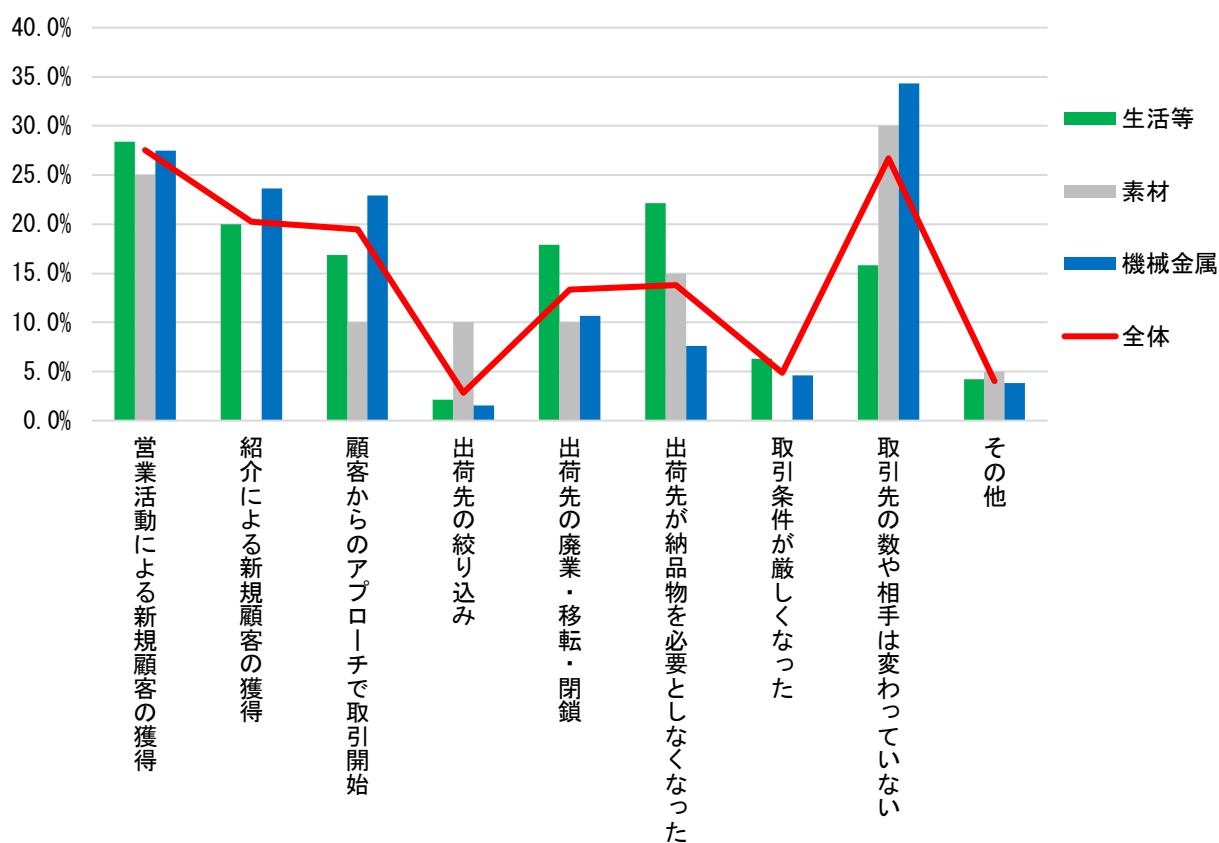
「素材」の分野では「あまり変わらない」(55.0%)の割合が最も高くなっている。

「機械金属」の分野でも「あまり変わらない」(48.9%)の割合が最も高くなっており、「増加した」が「減少した」の割合を上回っている。



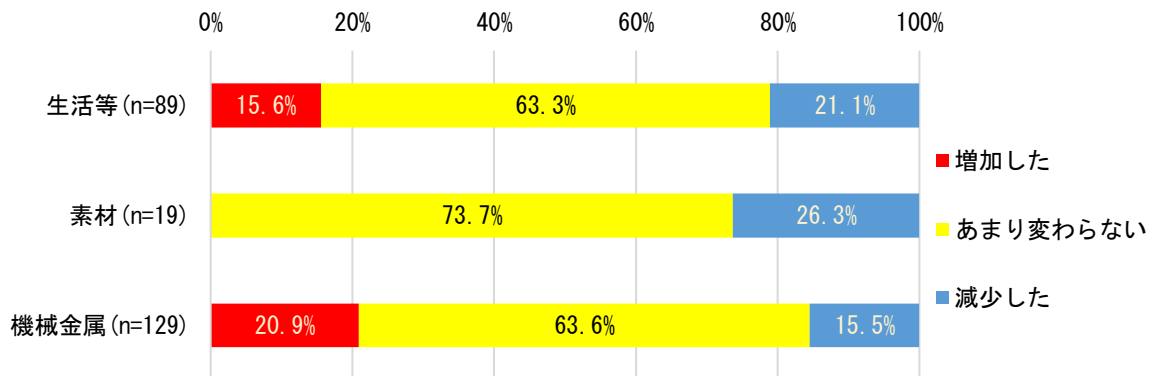
8. 出荷先が変化した主な理由

出荷先が変化した理由を産業分類（3分類）別にみると、「営業活動による新規顧客の獲得」がすべての業種で高くなっている。「紹介による新規顧客の獲得」は、「生活等」「機械金属」で高くなっているが、「素材」ではゼロとなっている。「取引先の数や相手は変わっていない」では、「生活等」の割合が低くなっており、取引先の変化が大きかったものと推測される。



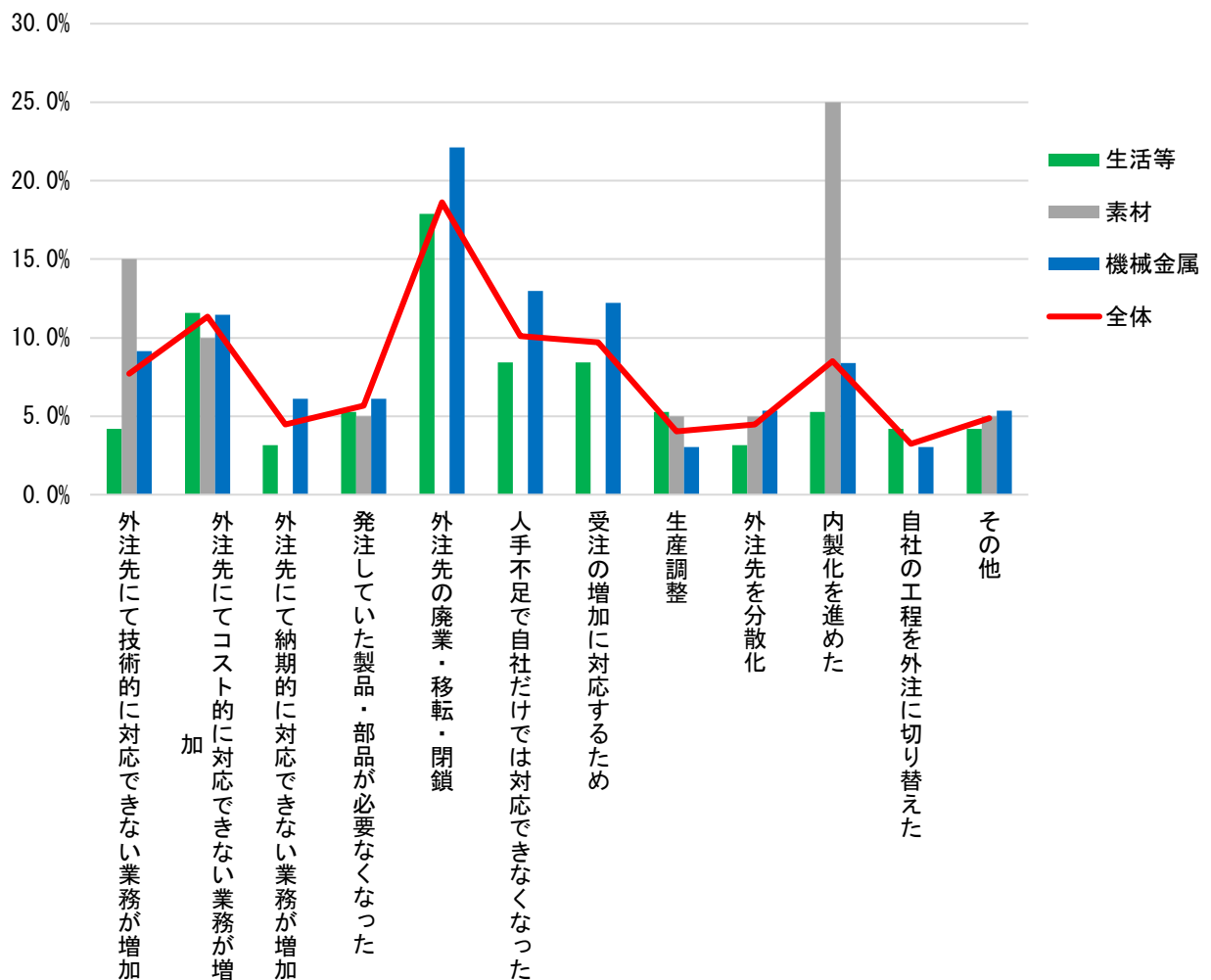
9. 過去5年間の外注先数の変化

外注先数の変化を見ると、すべての産業分類において「あまり変わらない」の回答が最も高くなっている。



10. 外注先が変化した主な理由

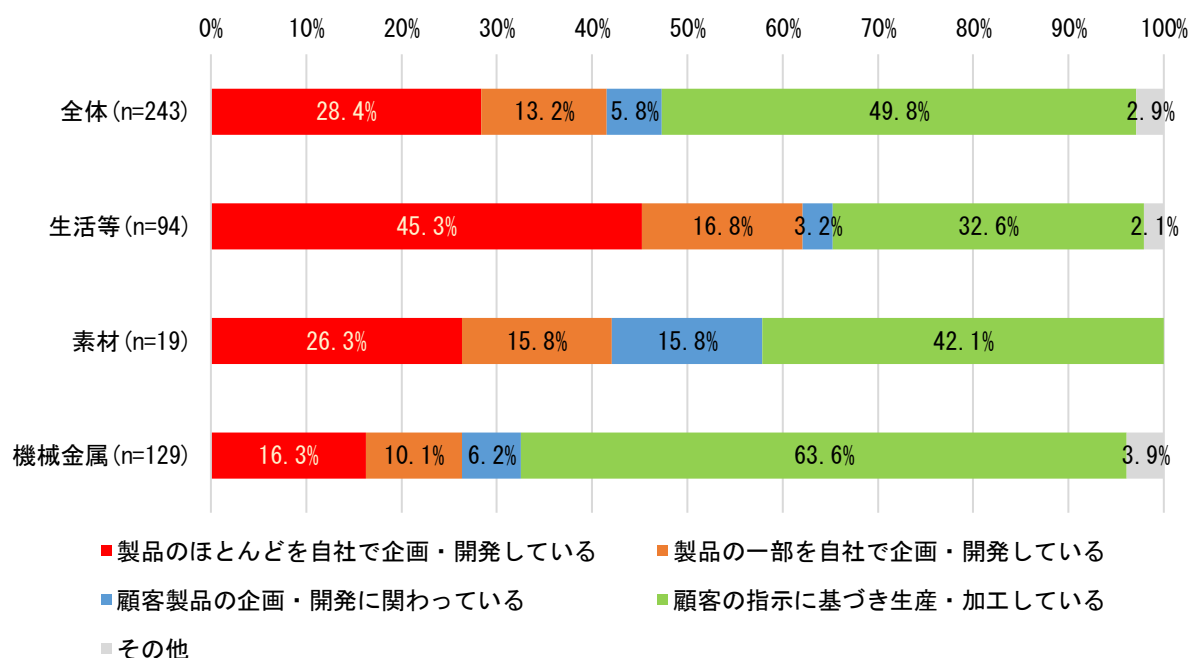
外注先が変化した理由を産業分類（3分類）別にみると、「外注先の廃業・移転・閉鎖」が「生活等」「機械金属」の業種で多いが、「素材」では0件となっている。「素材」では、「内製化を進めた」「外注先にて技術的に対応できない業務が増加」が特に多くなっている。



1 1. 顧客向け製品における企画・開発の関与

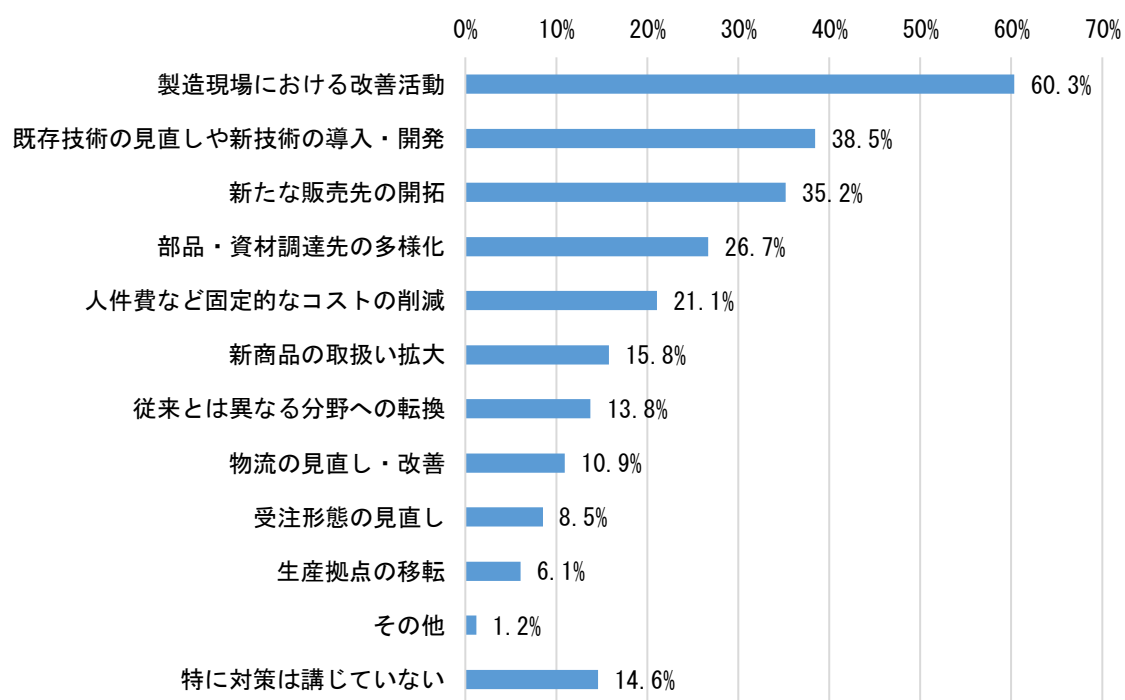
全体では、「顧客の指示に基づき生産・加工している」(49.8%)の割合が最も高い。

産業分類(3分類)別にみると、「生活等」では「製品のほとんどを自社で企画・開発している」(45.3%)の割合が高くなっており、「機械金属」では、「顧客の指示に基づき生産・加工している」(63.6%)が特に高くなっている。



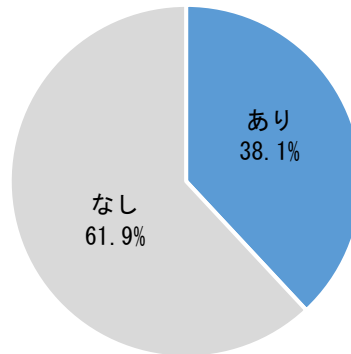
1 2. この5年間の主な取り組み

この5年間の主な取り組みでは、「製造現場における改善活動」が最も多く、「既存技術の見直しや新技術の導入・開発」、「新たな販売先の開拓」と続く。



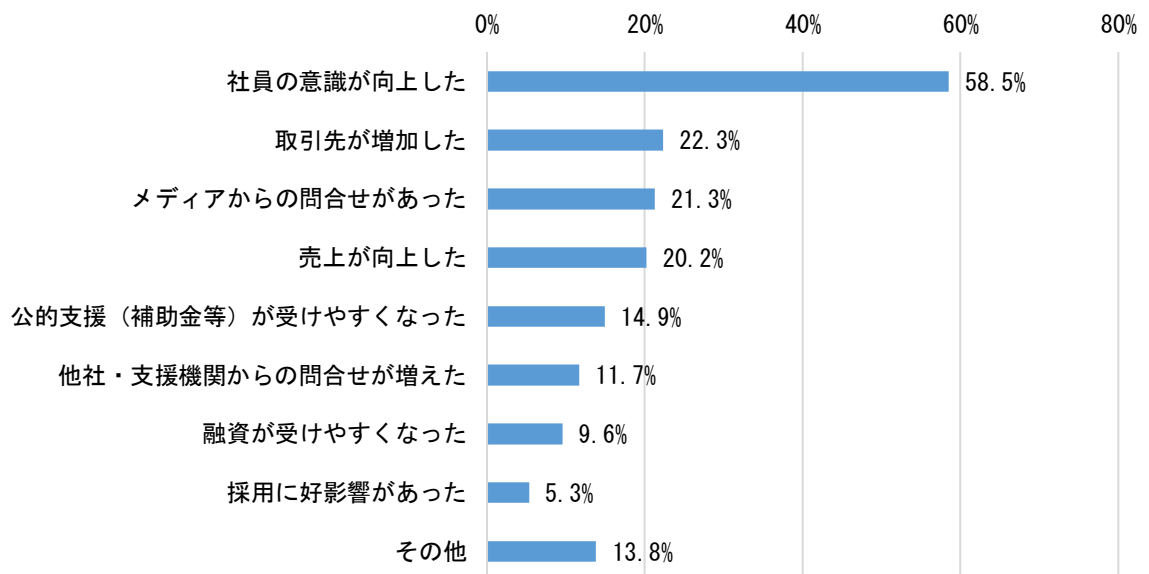
13. 受賞した表彰制度や取得した認証制度

過去に受賞した表彰制度や取得した認証制度については、38.1%が何らかの制度に関する記載があった。内容は、ISO（9001、14001、FSSC22000 など 26 件）、労働環境に関する認証・表彰（仕事と生活のバランス企業表彰、健康優良法人など 10 件）が多くみられる。



(2) 受賞した表彰制度や取得した認証制度の効果

認証制度等を取得した効果では、「社員の意識が向上した」(58.5%) が最も多く、「取引先が増加した」(22.3%)、「メディアからの問い合わせがあった」(21.3%)、「売上が向上した」(20.2%)と続いている。

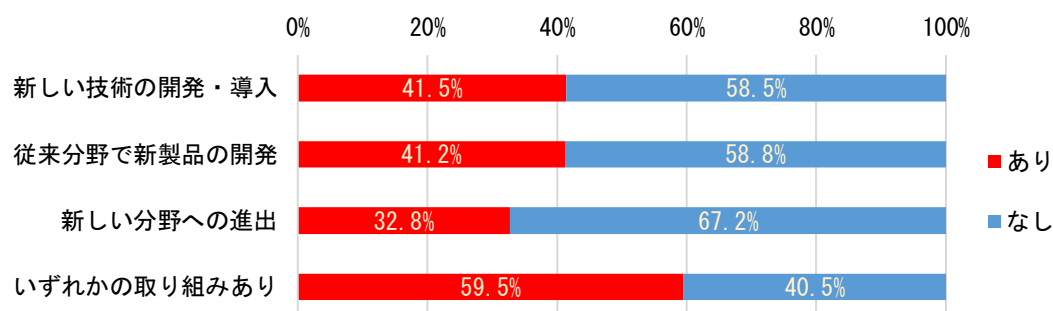


1 4. 新技術や新製品、新分野進出などの実績と今後の見通し

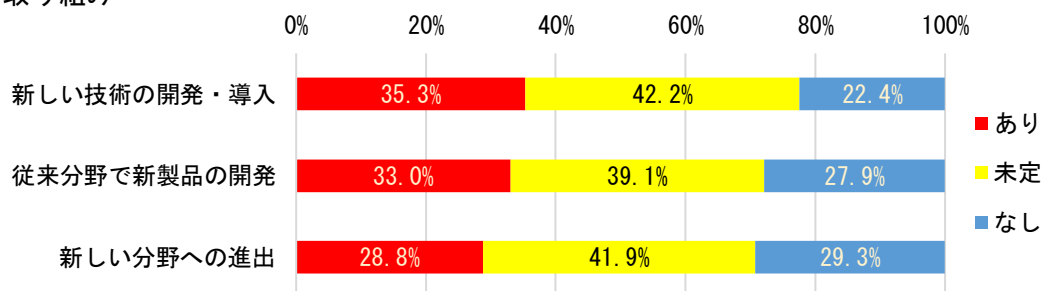
過去 5 年間の取り組みで「あり」と回答した割合は、「新しい技術の開発・導入」が 41.5%、「従来分野で新製品の開発」が 41.2%、「新しい分野への進出」は 32.8%となっている。「新しい分野への進出」の割合が他の 2 項目に比べると低くなっているのは、新しい分野への進出はリスクが高いためと推測される。「新しい技術の開発・導入」「従来分野で新製品の開発」「新しい分野への進出」のいずれかの取り組みについて「あり」と回答した割合は 59.5%となっている。

今後の取り組みで「あり」と回答した割合は、「新しい技術の開発・導入」が 35.3%、「従来分野で新製品の開発」が 33.0%、「新しい分野への進出」が 28.8%となっており、今後新技術や新製品、新分野進出など取り組みたいと考えている事業所が一定数存在している。

■過去 5 年間の取り組み



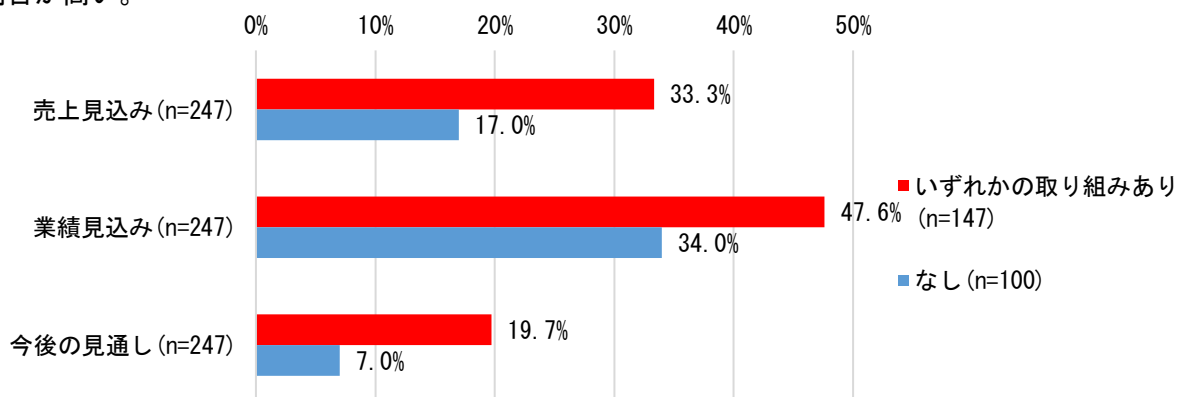
■今後の取り組み



「新技術や新製品、新分野進出などの実績と今後の見通し」と業績のクロス集計を行った。

売上見込み（2023 年度）では、過去 5 年間に何らかの取り組みを行った事業所の方が「増加」と回答した割合が高い結果となっている。

今後の見通しにおいても、何らかの取り組みを行う予定のある事業所の方が「増加」と回答した割合が高い。



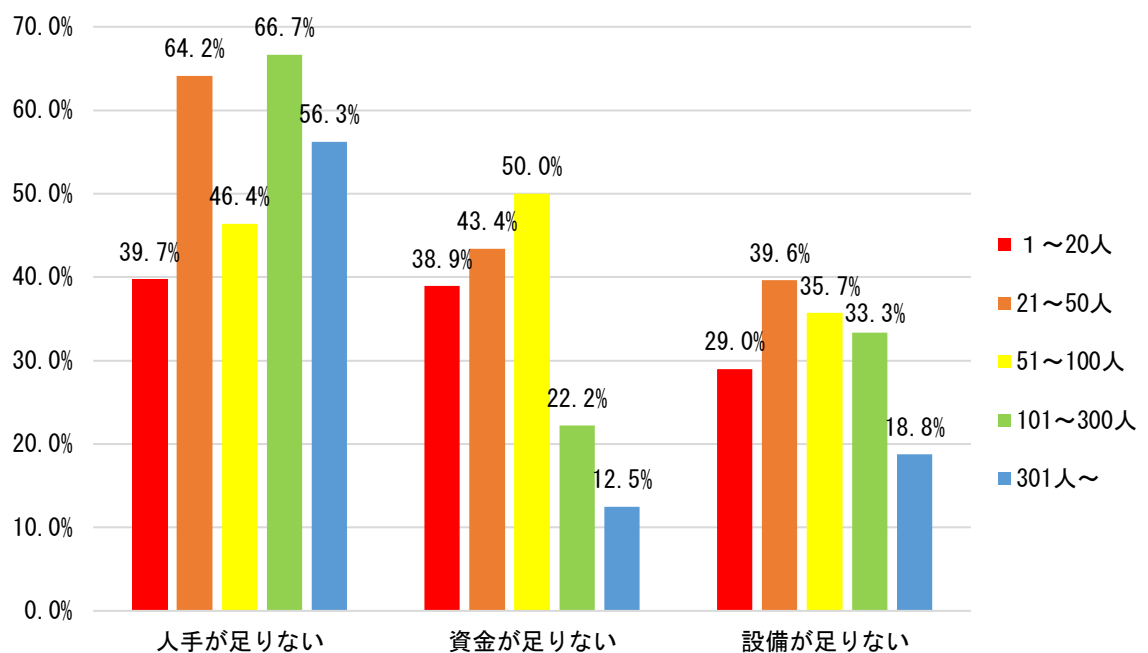
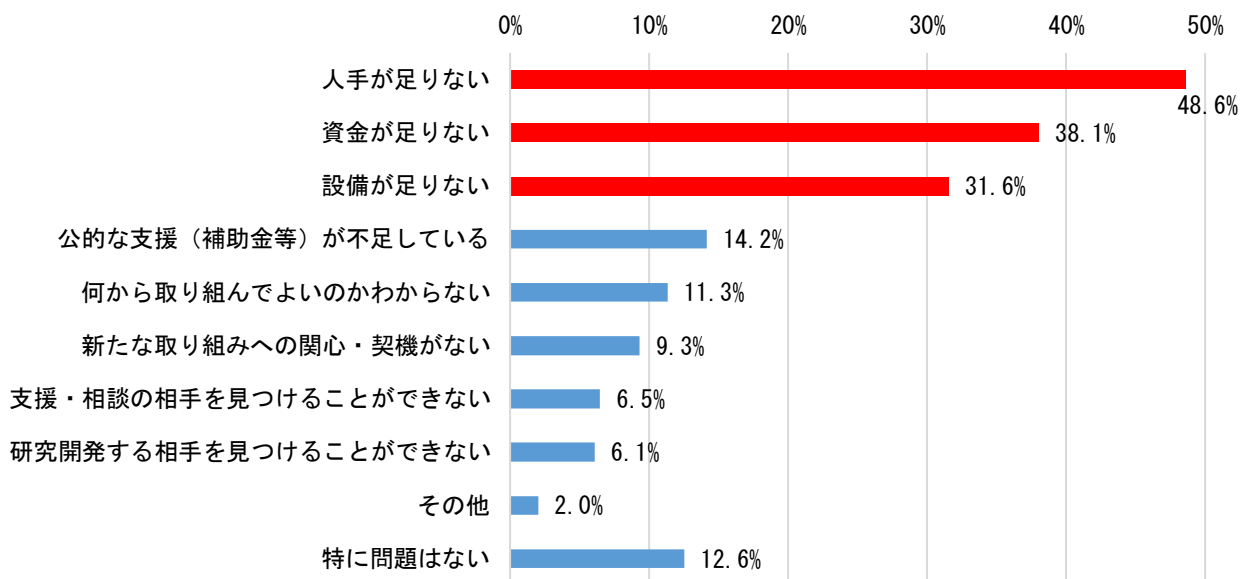
15. 「新しい技術の開発・導入」「新製品の開発」にあたっての課題

「新しい技術の開発・導入」「新製品の開発」にあたっての課題については、「人手が足りない」(48.6%)が最も高く、「資金が足りない」(38.1%)、「設備が足りない」(31.6%)と続いている。

規模別にみると、「人手が足りない」は39.7%(従業員数20人以下)から66.7%(101人～300人)と全体的に高い数字を示している。

「資金が足りない」は、従業員数100人を境に傾向が別れており、1～100人の事業所で割合が高くなっている。

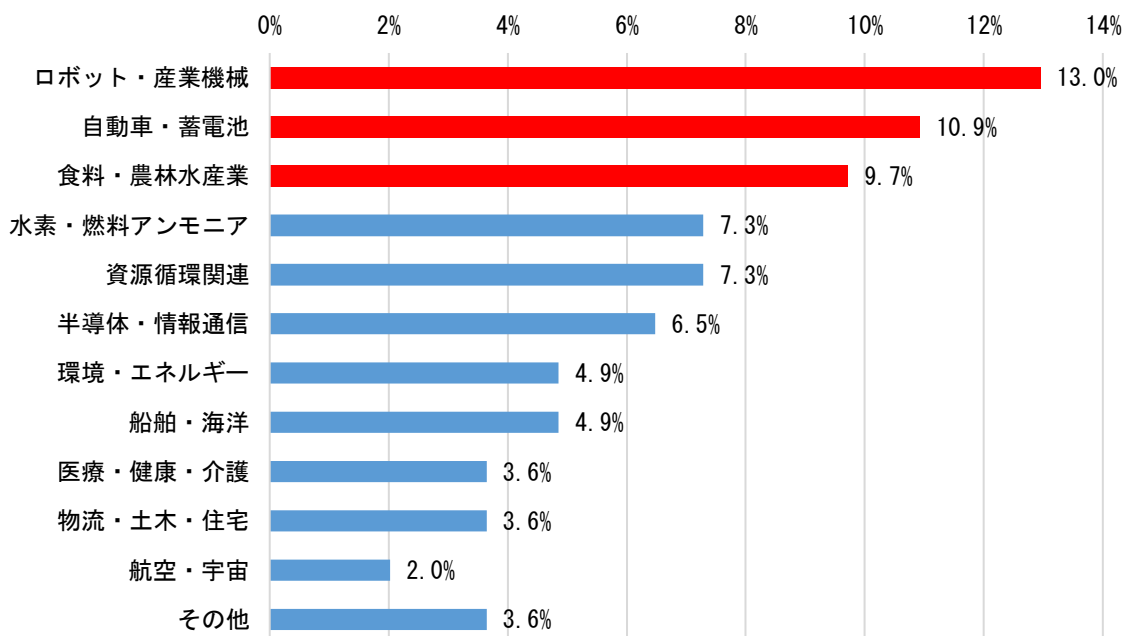
「設備が足りない」は、300人以上の大企業で比較的低い割合(18.8%)になっている。



16. 「新しい分野への進出」

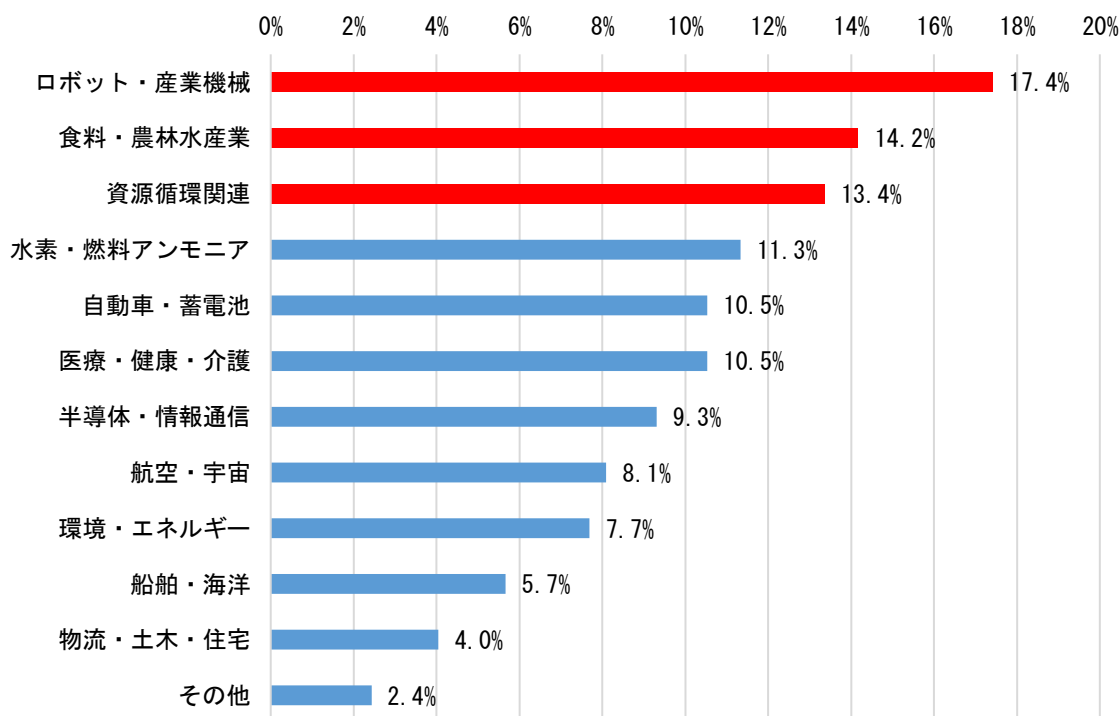
(1) 既に、着手している分野、取り組んでいる分野

すでに着手している分野では、「ロボット・産業機械」(13.0%)、「自動車・蓄電池」(10.9%)、「食料・農林水産業」(9.7%)の順に回答が多い。



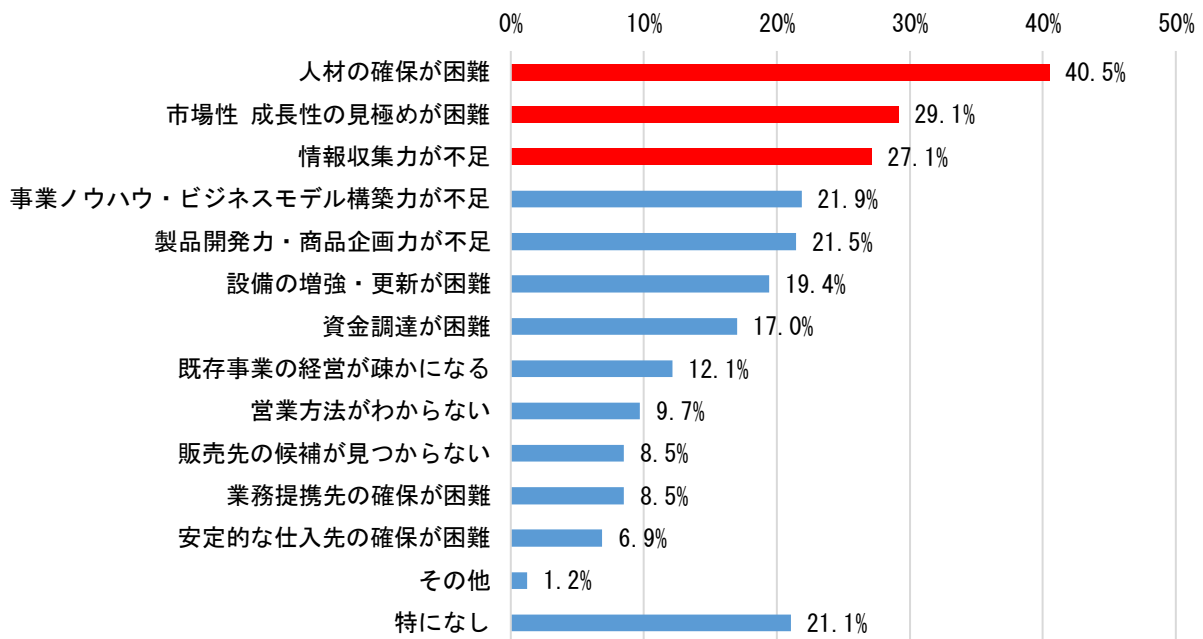
(2) 今後の事業展開において、関心のある分野

今後の事業展開の関心では、1位は「ロボット・産業機械」で変わらないが、「食料・農林水産業」(3位→2位)、「資源循環関係」(5位→3位)になっており、関心が高くなっている。



（３）新しい分野の進出にあたっての課題

新しい分野の進出にあたっての課題では、「人材の確保が困難」（40.5％）の回答が最も多く、「市場性・成長性が見極めが困難」（29.1％）、「情報収集力が不足」（27.1％）と続いている。



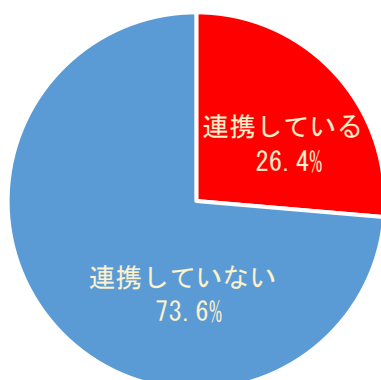
１７．他の企業・団体との連携状況

（１）連携状況

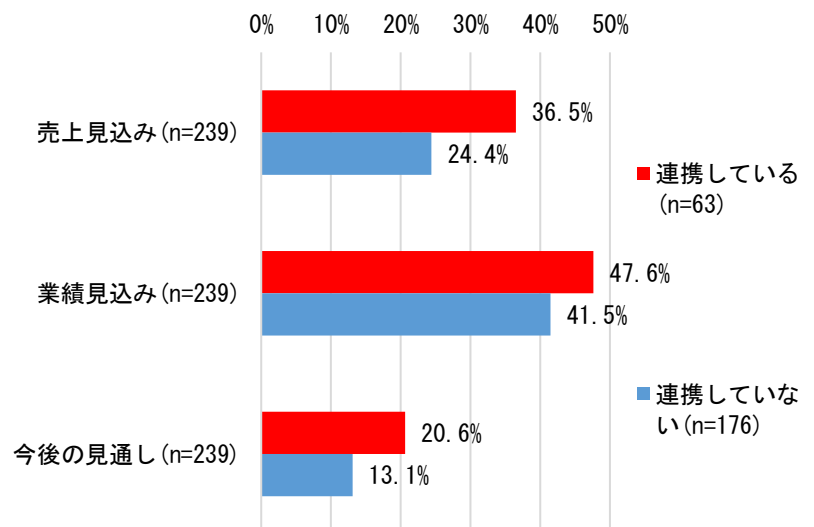
他の企業・団体との連携状況については、「連携している」の回答の割合は26.4%となっている。

連携状況と「売上見込み」「業績見込み」「今後の見通し」の関係を見ると、「連携している」事業所の方が、「売上見込み」における増加割合、「業績見込み」における黒字割合、「今後の見通し」における増加割合のすべてにおいて「連携していない」と回答した事業所を上回っている。

<連携状況>



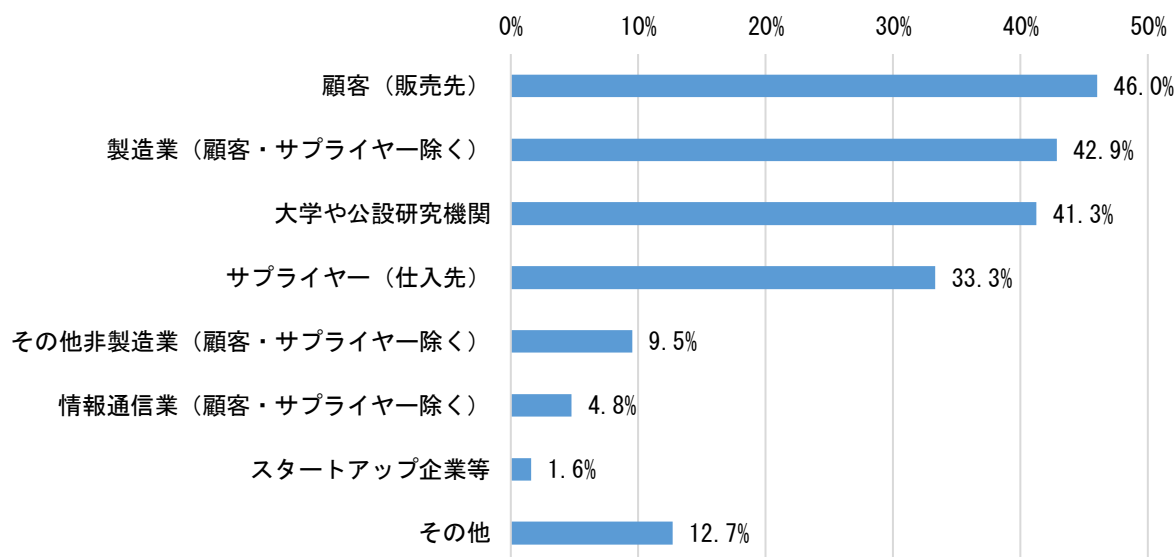
<連携状況と売上見込み等の関係>



（２）連携相手

連携相手では、「顧客（販売先）」（46.0％）の割合が最も高く、「製造業（顧客・サプライヤー除く）」（42.9％）「大学や公設研究機関」（41.3％）と続いている。

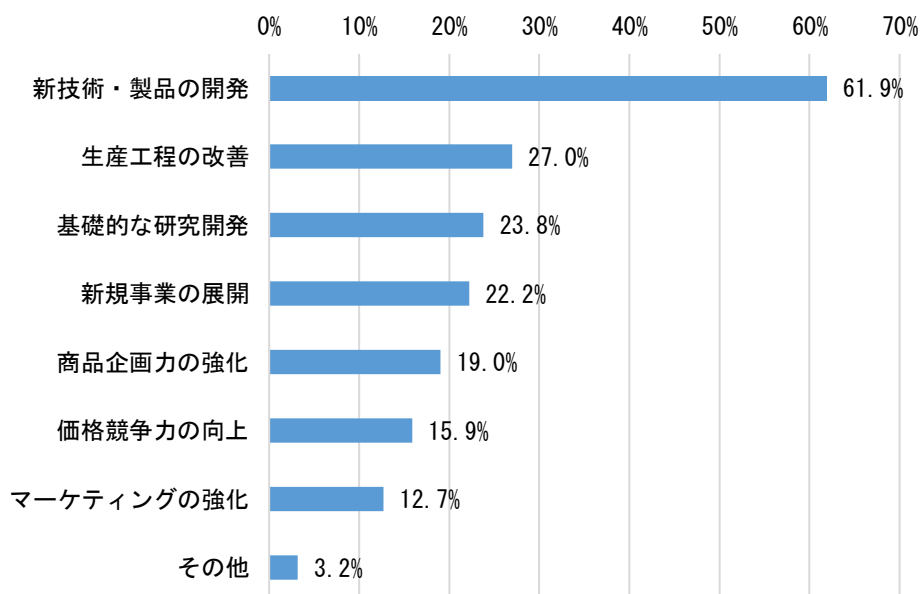
＜連携相手＞



（３）連携の目的

連携の目的では、「新技術・製品の開発」（61.9％）の割合が最も高く、「生産工程の改善」（27.0％）「基礎的な研究開発」（23.8％）と続いている。

＜連携の目的＞



18. デジタル技術活用

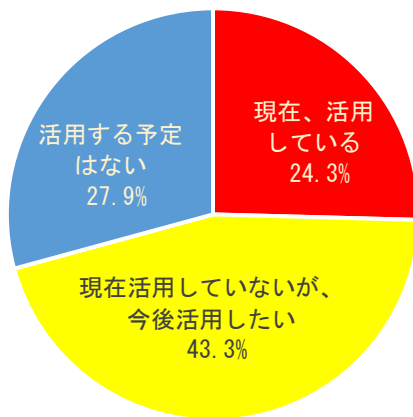
(1) 活用状況

デジタル技術活用（AI・IoT・ビッグデータ・RPA・クラウド・XR等）では、「現在、活用している」が24.3%、「現在活用していないが、今後活用したい」が43.3%、「活用する予定はない」が27.9%となっている。

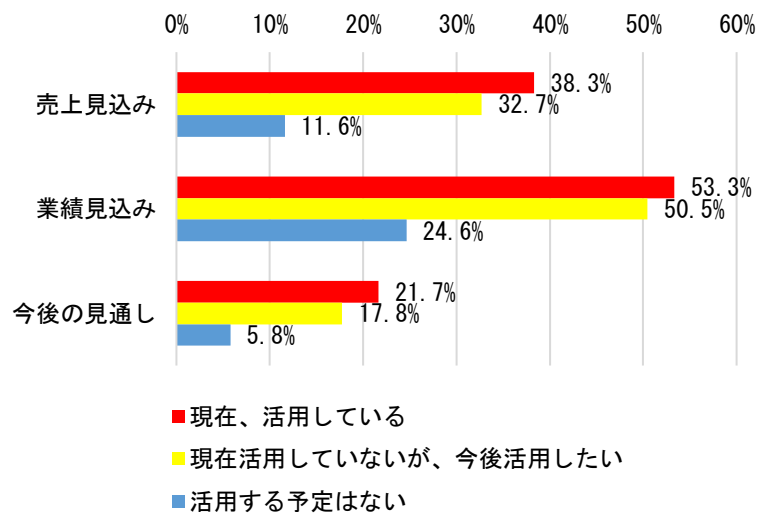
デジタル技術活用状況と「売上見込み」「業績見込み」「今後の見通し」の関係を見ると、「活用している」および「今後活用したい」と回答した事業所の方が、「売上見込み」における増加割合、「業績見込み」における黒字割合、「今後の見通し」における増加割合のすべてにおいて「活用する予定はない」と回答した事業所を上回っている。

デジタル技術活用状況と規模の関係を見ると、規模が小さい事業所ほど活用率が低い傾向がある。

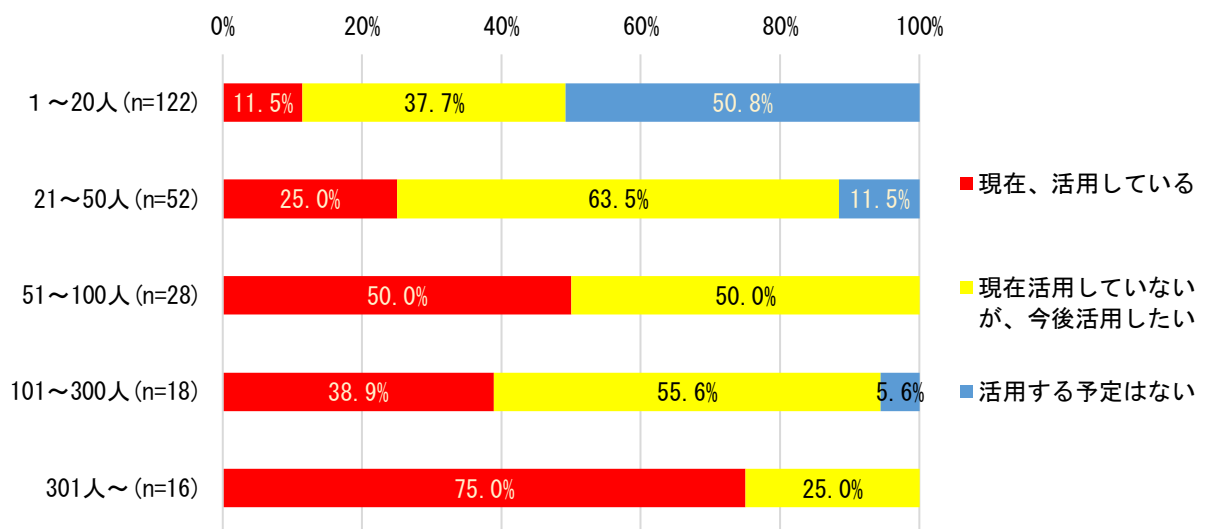
＜デジタル技術活用状況＞



＜デジタル技術活用状況と売上見込み等との関係＞



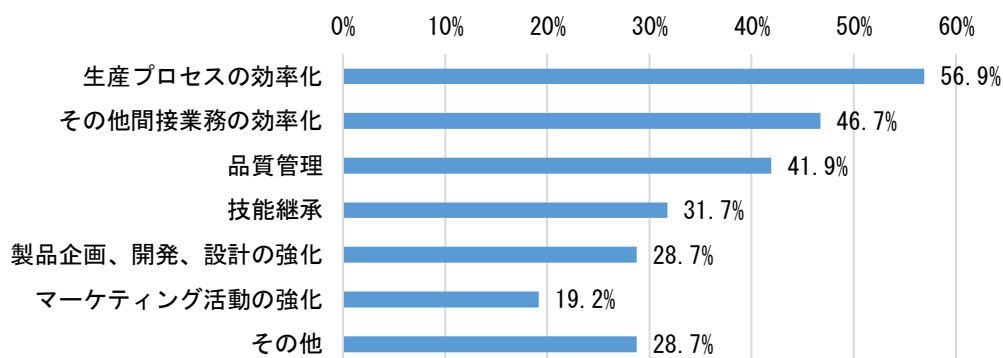
＜規模別のデジタル技術活用状況＞



（２）活用目的

「現在、活用している」「現在活用していないが、今後活用したい」と回答した事業所の活用目的を見ると、「生産プロセスの効率化」（56.9％）の割合が最も高く、「その他間接業務の効率化」（46.7％）、「品質管理」（41.9％）と続いている。

＜デジタル技術の活用目的＞

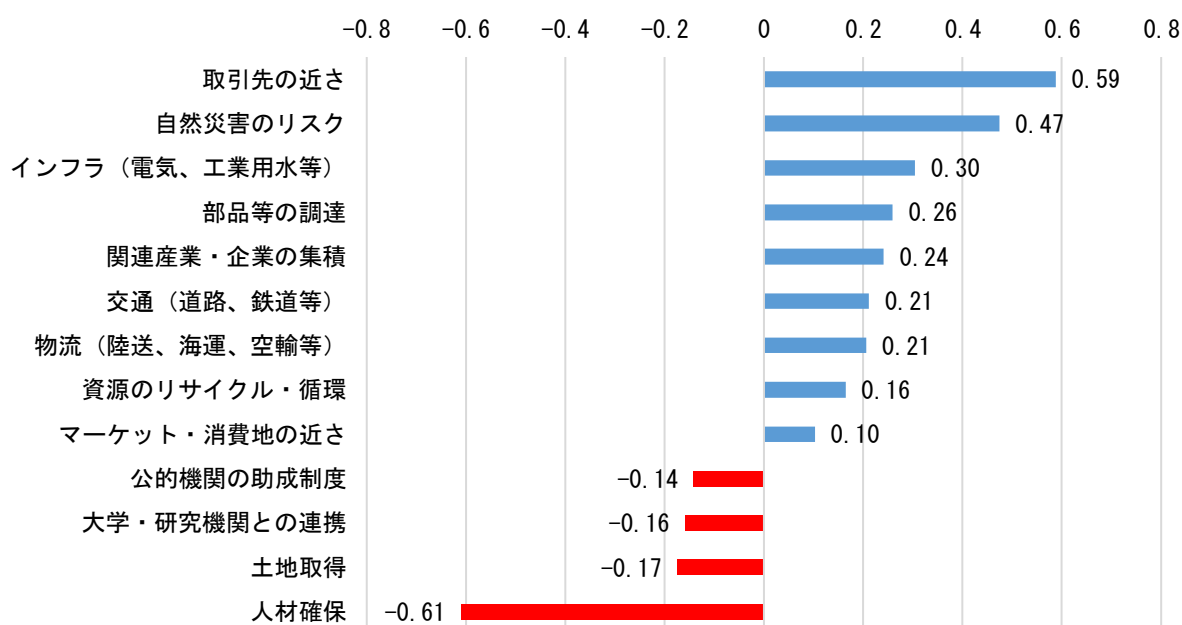


１９．姫路市の操業環境

姫路市の操業環境では、良い：２点、やや良い：１点、ふつう：０点、やや悪い：－１点、悪い：－２点として平均を算出すると、１３項目中９項目がプラスになっており総合的に見て高い評価が得られている。

マイナスの項目では、「人材確保」が飛びぬけて悪い評価になっており、次に「土地取得」の評価が悪くなっている。

＜操業環境評価＞



姫路市の操業環境	良い	やや良い	ふつう	やや悪い	悪い
取引先の近さ	66	44	102	21	7
自然災害のリスク	36	64	114	20	2
インフラ(電気、工業用水等)	17	46	161	9	0
部品等の調達	31	52	114	32	10
関連産業・企業の集積	31	42	124	31	8
交通(道路、鉄道等)	22	60	108	38	8
物流(陸送、海運、空輸等)	11	54	144	20	4
資源のリサイクル・循環	15	35	168	12	7
マーケット・消費地の近さ	19	46	123	32	14
公的機関の助成制度	3	23	162	30	16
大学・研究機関との連携	6	16	158	32	16
土地取得	6	21	148	37	18
人材確保	3	9	104	77	40

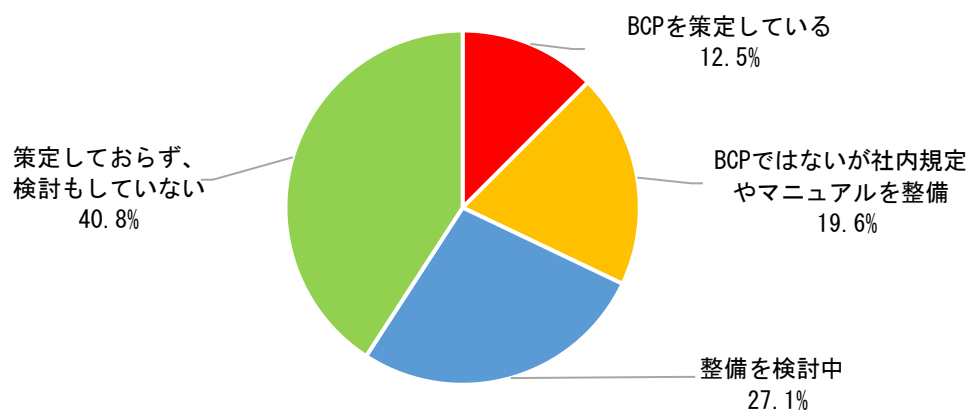
20. 緊急時の対応を想定したBCP

(1) BCP策定状況

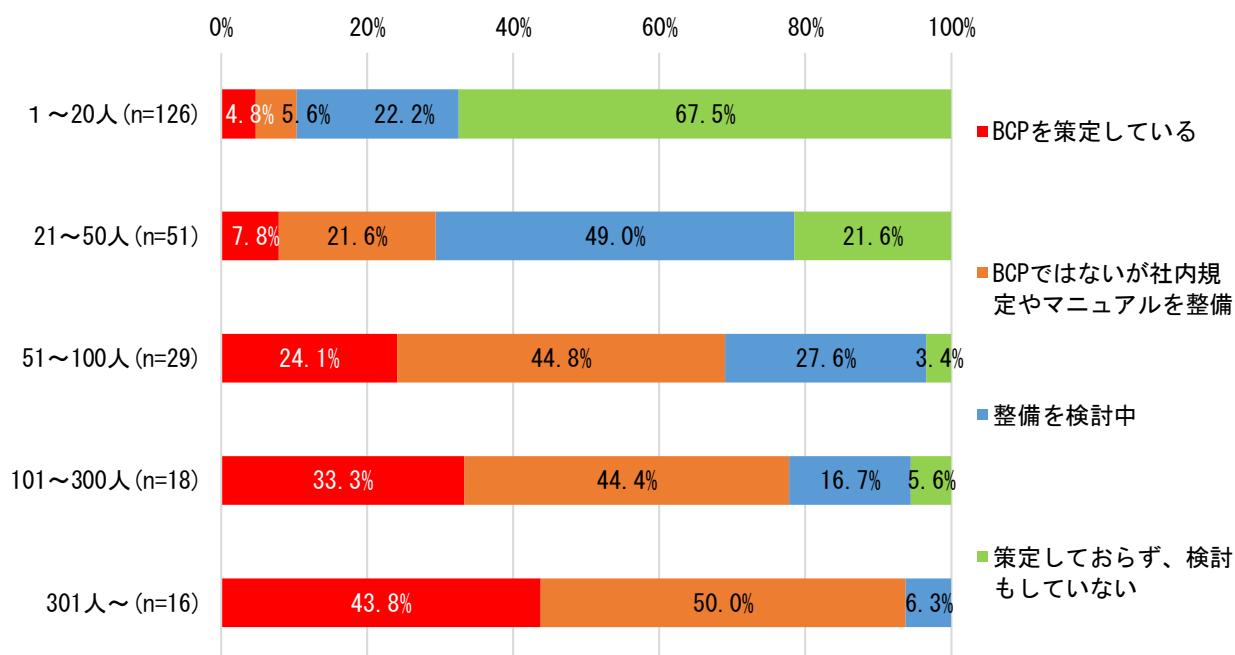
緊急時の対応を想定したBCPの策定状況では、「策定しておらず、検討もしていない」(40.8%)の割合が最も高く、「整備を検討中」(27.1%)が続いている。合わせると57.9%になり、調査時点で過半数がBCPを策定していない。

規模別にみると、規模が小さくなるほど「策定している」「社内規定やマニュアルを整備している」の割合が低くなる傾向がある。

<策定状況>



<規模別の策定状況>

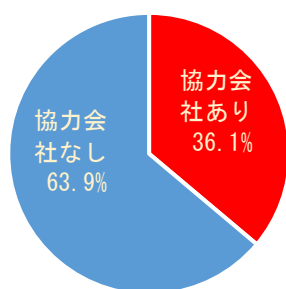


(2) 生産継続の取り組み

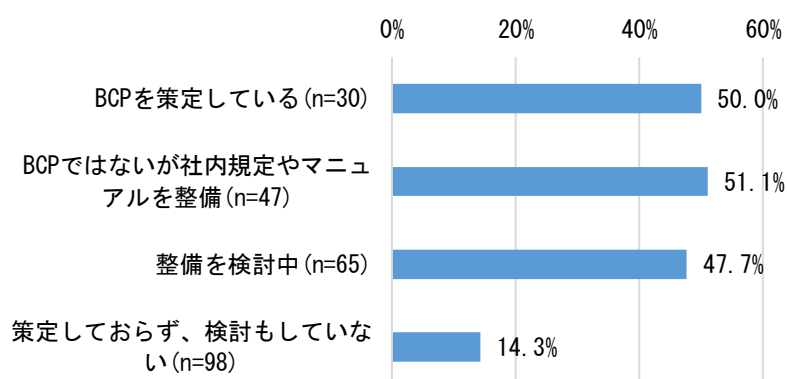
生産継続取り組みとして協力会社があると回答した割合は 36.1%となっている。

BCP 策定状況との関係を見ると、「BCP を策定している」「BCP ではないが社内規定やマニュアルを整備している」事業所では半数が「協力会社あり」と回答している。「協力会社あり」と回答した割合は、BCP 策定状況が「整備を検討中」の事業所で 47.7%、「策定しておらず、検討もしていない」事業所で 14.3%となっており、BCP を策定していないが協力会社は確保しているという事業所がある。

<協力会社の有無>



<BCP 策定状況との関係（協力会社ありと回答した割合）>



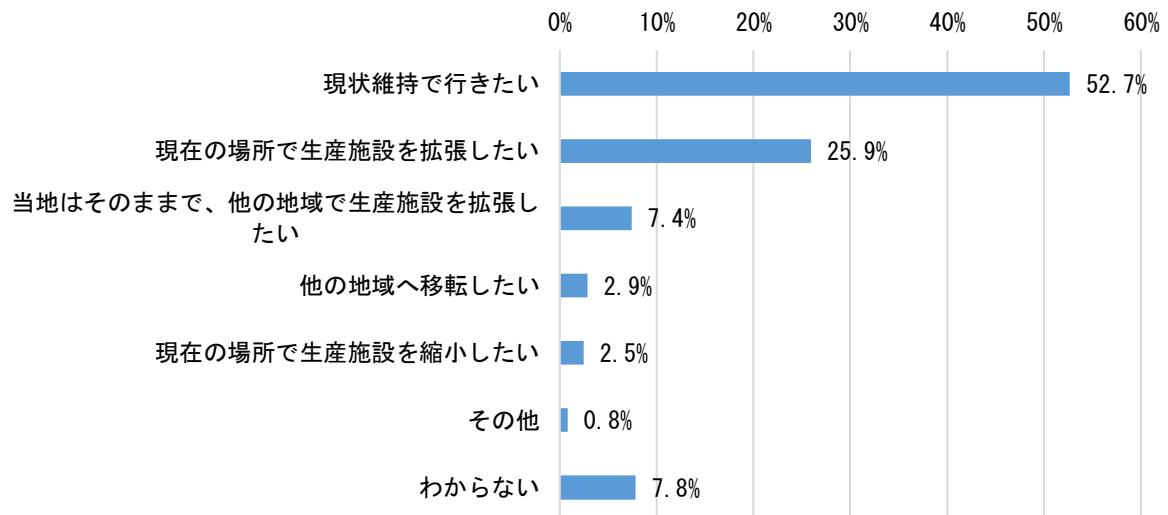
2 1. 今後の施設・土地利用の意向

(1) 施設・土地利用の意向

今後の施設・土地利用の意向では、「現状維持で行きたい」(52.7%)と回答した割合が最も高く、続いて「現在の場所で生産施設を拡張したい」(25.9%)の割合が高くなっている。

一方で、「他の地域で生産施設を拡張したい」と「他の地域へ移転したい」と回答した割合の合計が10.3%となっている。

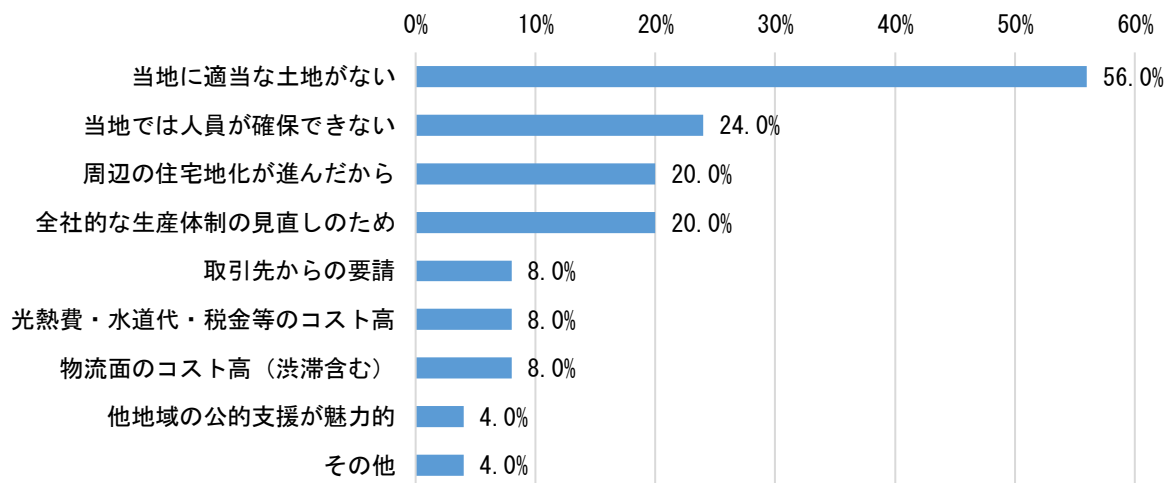
<今後の施設・土地利用の意向>



(2) 「当地はそのまま、他の地域で生産施設を拡張したい」「他の地域へ移転したい」の理由

「当地はそのまま、他の地域で生産施設を拡張したい」「他の地域へ移転したい」と回答した25社のうち、理由として「当地に適当な土地がない」(56.0%)と回答した割合が最も高く、「当地では人員が確保できない」(24.0%)、「周辺の住宅地化が進んだから」(20.0%)、「全社的な生産体制の見直しのため」(20.0%)と続いている。

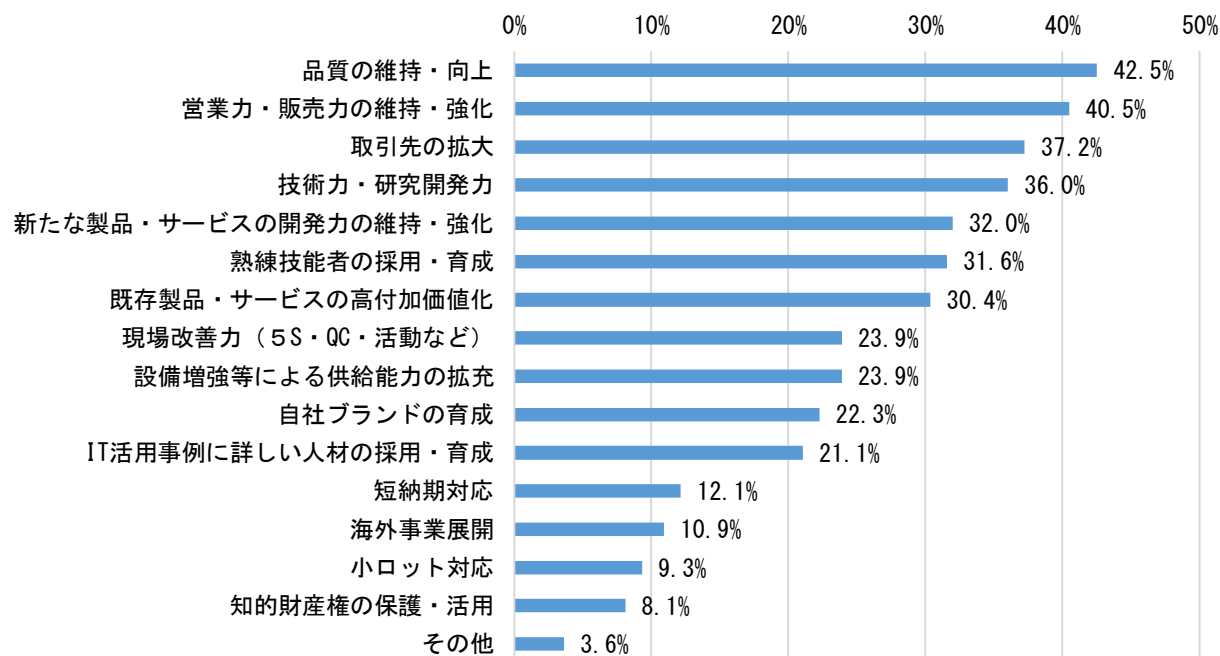
<理由>



2.2.事業活動において課題と感ずる分野

事業活動において課題と感ずる分野では、「品質の維持・向上」（42.5%）と回答した割合が最も高く、「営業力・販売力の維持・強化」（40.5%）、「取引先の拡大」（37.2%）と続いている。

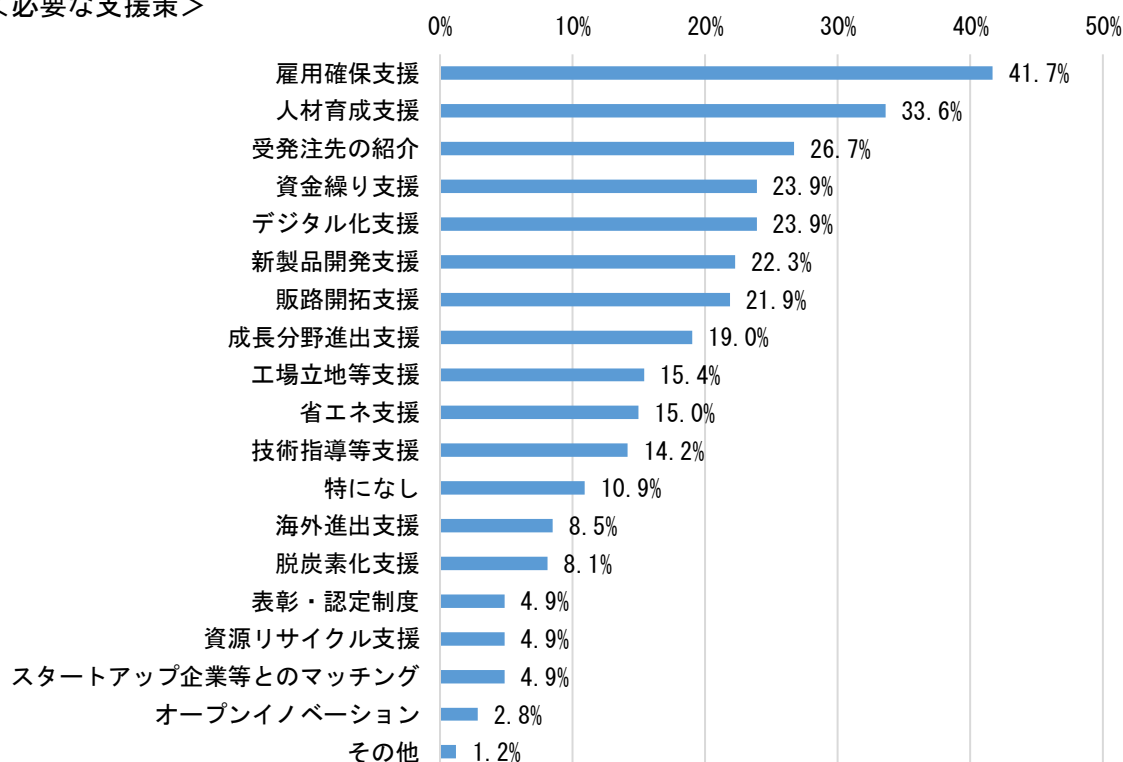
＜課題と感ずる分野＞



2.3.ものづくりに関する必要な支援策

ものづくりに関する必要な支援策では、「雇用確保支援」（41.7%）と回答した割合が最も高く、「人材育成支援」（33.6%）と続いております、人材に関する項目が上位1位と2位を占めている。

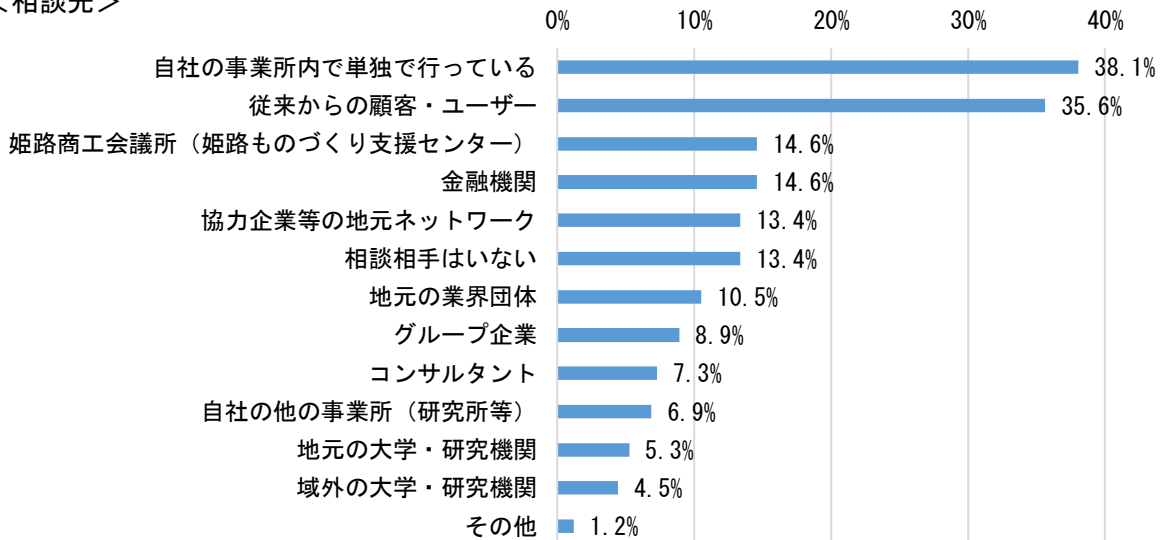
＜必要な支援策＞



2 4. ものづくりに関する相談先

ものづくりに関する相談先では、「自社の事業所内で単独で行っている」(38.1%)と回答した割合が最も高く、「従来からの顧客・ユーザー」(35.6%)と続いている。自社および取引先外部の相談先としては、「姫路商工会議所(姫路ものづくり支援センター)」(14.6%)と「金融機関」(14.6%)の割合が高くなっている。

＜相談先＞

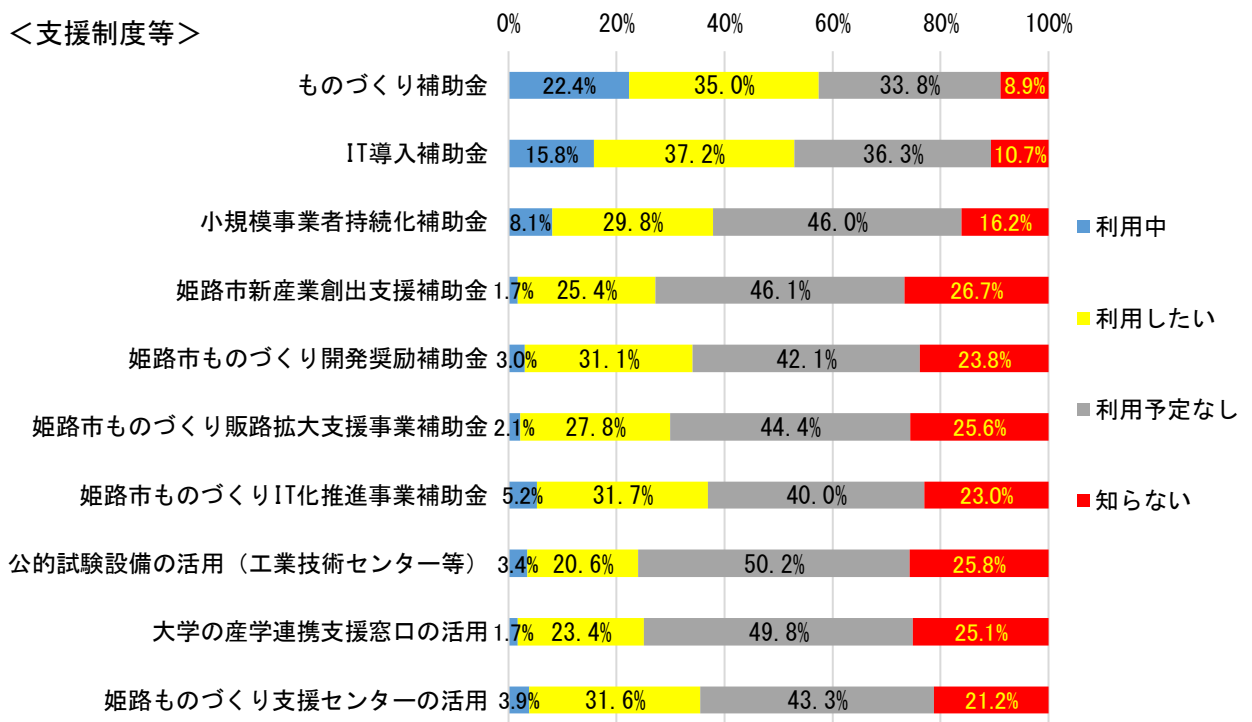


2 5. ものづくりに関する支援制度等

ものづくりに関する支援制度等の「利用中」の割合を見ると、「ものづくり補助金」(22.4%)、「IT導入補助金」(15.8%)、「小規模事業者持続化補助金」(8.1%)の国の制度の割合が高くなっている。

「姫路市新産業創出支援補助金」など自治体の支援制度は「知らない」の割合が軒並み 20%を超えている。「利用中」の割合が国の補助金と比較して低い要因の一つと考えられる。

＜支援制度等＞



Ⅲ. まとめ

1. 人材不足の傾向が顕著

今後の事業展開（設問 15・16）や必要な支援策（設問 23）に関する質問に対して、人材の不足・人材の確保に関わる課題が上位に挙がっていた。

多様な人材活用（女性・シニア・外国人材等）について導入・活用事例・支援策等の情報提供、労働者の自律的・主体的な学び・学び直しの促進による生産性向上などの支援に取り組む。

2. 土地の不足が事業所の市外移転の主な要因

姫路市の操業環境（設問 19）に関する質問に対して概ね良好な評価を得ている一方で、地域外での拡張／市外への移転を検討している事業者が10%超ある。その理由を見ると、用地不足に関する回答が圧倒的に多くっており、用地不足が事業所の市外流出につながると考えられる。

耕作放棄地や市街化調整区域等の低・未利用地の活用に向けた実態把握や、兵庫県と連携したスピーディーな都市計画区域の制限緩和などの用地確保に向けた取り組みが求められる。

3. 産業構造や成長産業に関する情報発信

自社の強み（設問 5）に関する質問では、既存取引先との関係性に関する項目が上位に挙がっていることから、取引先の良好な関係・取引実績が強みになっていると推測される。一方で、DX/GXなどの環境変化への対応に関する項目は低調になっている。また、新しい分野の進出にあたっての課題（設問 16）に関する質問では、市場性・成長性を見極めや情報収集力、営業力の不足が課題として挙げられている。

当地の産業構造を踏まえた、産業・技術動向等に関する情報発信に取り組む。

4. 外部との連携促進

外部の企業・団体等との連携（設問 17）に関する質問に対して、連携を進めている事業所の方が業績が良い傾向がみられる一方で、連携していると回答した割合は26%程度にとどまっている。

産学連携やオープンイノベーションの枠組みなどを利用して連携の促進に取り組む。

5. デジタル技術の活用促進

デジタル技術の活用（設問 18）に関する質問に対して、活用が進んでいる事業所の方が活用が進んでいない事業所より業績が良い傾向がみられた。規模別の傾向を見ると、規模が小さい事業所ほど活用度が低くなっていた。

中小・小規模事業者の生産性向上支援の一つとして、デジタル化の情報提供・個別相談（専門家相談）・実装に向けた一連の支援に取り組む。

6. 販路開拓の取り組み支援

事業活動全般の課題（設問 22）に関する質問では、営業力強化や取引先拡大の回答が上位に挙がっていた。自社の強み（設問 5）に関する質問では、営業力と回答した割合は10.1%と低い水準にとどまっている。

販路拡大等の支援として、情報提供や企業の海外展開、販路拡大支援に取り組む。

7. 支援施策等の認知度の向上

支援制度の利用状況（設問25）に関する質問に対して、姫路市の支援制度はものづくり補助金やIT導入補助金などの国の支援制度と比べて利用度・認知度ともに低くなる結果となっていた。新技術・新製品開発の課題に関する設問では、資金不足・設備不足の回答が上位になっており、これらの課題に対する解決策として姫路市の支援制度は有効であると考えられる。

制度の周知を図るため、当所が姫路市と共同で設置している「姫路ものづくり支援センター」を活用し、事業所に向けた情報発信に取り組む。

製造業の実態及び次世代産業への進出に関する調査

ご回答方法(下記いずれかでご回答いただきますようお願いいたします。)

(1) 姫路商工会議所HPより回答 (<https://www.himeji-cci.or.jp/tokei/chosa.html>)

(2) 右記 QR コードより回答 (グーグルフォーム)

(3) 同アンケート用紙にご記入後、同封の返信用封筒にて回答

(4) 同アンケート用紙にご記入後、FAXによる回答 (FAX 番号: 079-222-6005)



【ご回答期限: 2024年2月22日(木)】(姫路商工会議所)

【貴社の概要・状況】

(1) 事業所名	
(2) ご記入者名	
(3) ご連絡先	E-mail: _____ TEL: _____ ※メールアドレスもご記入ください。調査結果のご報告を含め、情報提供に活用させていただきます。
(4) 業 種 (製造業中分類より)	1. 食料品 2. 飲料・たばこ・飼料 3. 繊維工業 4. 木材・木製品 5. 家具・装備品 6. パルプ・紙・紙加工品 7. 印刷・同関連業 8. 化学工業 9. 石油製品・石炭製品 10. プラスチック製品 11. ゴム製品 12. なめし革・同製品・毛皮 13. 窯業・土石製品 14. 鉄鋼業 15. 非鉄金属 16. 金属製品 17. はん用機械器具 18. 生産用機械器具 19. 業務用機械器具 20. 電子部品・デバイス 21. 電気機械器具 22. 情報通信機械器具 23. 輸送用機械器具 24. その他の製造業 ()
(5) 規 模	1. 1~20人 2. 21~50人 3. 51~100人 4. 101~300人 5. 301人~
(6) 売上見込み	1. 増加 2. 前年度並み 3. 減少 (2023 年度)
(7) 業績見込み	1. 黒字 2. 収支トントン 3. 赤字 (2023 年度)
(8) 今後の見通し	1. 良い 2. ふつう 3. 悪い (2024 年度)

製造業の実態及び次世代産業への進出に関するアンケート

問1. 貴社の製品は、最終的にはどのような製品に使用されますか。該当するものをすべて選択してください。

1. 自動車 2. 船舶・鉄道車両 3. 航空機 4. 家電製品 5. 重電製品(※) 6. 重機・建機 7. 建材・建築資材
8. 業務用機械 9. 工作機械 10. 医療・健康 11. 飲食品 12. 家庭用消費財 13. その他()

※発電用電動機(ガスタービン、蒸気タービン)、回転電気機械(タービン用発電機)、開閉制御装置(ガス開閉装置、遮断機、監視装置)、静止電気機械器具(変圧器、インバータ)等

問2. 貴社が提供する製品・サービスの主な分野について、下記より1つ選択してください。

1. 原料・素材 2. 部品 3. 最終製品 4. その他()

問3. 貴社の手掛ける機能について、該当するものをすべて選択してください。

	該当する項目すべてに ○を付けてください。	←左記○を付けた項目についてご記入ください。		
(回答例) ○○○○○	○	内製化	一部外注	すべて外注
1. 製品企画		内製化	一部外注	すべて外注
2. 開発・設計		内製化	一部外注	すべて外注
3. 試作・少量生産		内製化	一部外注	すべて外注
4. 量産		内製化	一部外注	すべて外注
5. アフターサービス・メンテナンス		内製化	一部外注	すべて外注
6. その他		内製化	一部外注	すべて外注

問4. 貴社の技術分野について、該当するものがあればすべて選択してください。

1. 金属材料製造 2. 無機材料製造 3. 有機材料製造 4. その他原料・素材製造
5. プレス・鍛造 6. 鋳造 7. 切削・研磨・切断 8. 金属大物加工 9. 難加工材の加工
10. 板金・製缶 11. 溶接・接合 12. 粉末冶金・射出成型 13. プラスチック加工
14. ゴム加工 15. ガラス・セラミックス加工 16. その他特殊材料加工 17. 光造形・立体造形
18. 金型・木型製造 19. 熱処理 20. めっき・表面処理・塗装
21. 機械・ユニット組立 22. 電子部品組立 23. 組み込みソフトウェア開発 24. 3次元設計データ制作
25. 食料品・飲料・たばこ・飼料製造() 26. 家具・装備製造()
27. 印刷・同関連製造() 28. その他()

問5. 貴社の顧客に対する強みについて、該当するものをすべて選択してください。

1. 技術・研究開発力 2. 製品の開発・企画力 3. 設計・デザイン力 4. 顧客ニーズへの対応力
5. 熟練技能者の技能 6. 品質管理 7. 試作・小ロット対応 8. 短納期生産 9. 量産能力
10. 保有設備・機械 11. 工程の自動化・デジタル化 12. 営業・販売力 13. 顧客との信頼関係
14. ブランド力・知名度の高さ 15. 環境・脱炭素への対応力 16. 知財戦略 17. 経営健全性
18. わからない 19. その他()

問6. 貴社の出荷先や外注先の地域について、選択肢より上位 1 位～3 位まで該当する地域の番号をご記入ください。

	1 位	2 位	3 位	【選択肢】
出荷先の地域				1. 姫路市 2. 播磨圏域(※) 3. その他兵庫県
外注先の地域				4. その他近畿圏 5. その他国内 6. 海外

(※相生市、加古川市、赤穂市、高砂市、たつの市、稲美町、播磨町、市川町、福崎町、神河町、太子町、上郡町、佐用町)

問7. 過去5年間に貴社の出荷先数は変化しましたか。下記より1つ選択してください。

1. 増加した	2. あまり変わらない	3. 減少した
---------	-------------	---------

問8. 出荷先が変化した主な理由について、該当するものをすべて選択してください。

1. 営業活動による新規顧客の獲得	2. 紹介による新規顧客の獲得	3. 顧客からのアプローチで取引開始
4. 出荷先の絞り込み	5. 出荷先の廃業・移転・閉鎖	6. 出荷先が納品物を必要としなくなった
7. 取引条件が厳しくなった	8. 取引先の数や相手は変わっていない	9. その他()

問9. 過去5年間に貴社の外注先数は変化しましたか。下記より1つ選択してください。

1. 増加した	2. あまり変わらない	3. 減少した
---------	-------------	---------

問10. 外注先が変化した主な理由について、該当するものをすべて選択してください。

1. 外注先にて技術的に対応できない業務が増加	2. 外注先にてコスト的に対応できない業務が増加		
3. 外注先にて納期的に対応できない業務が増加	4. 発注していた製品・部品が必要なくなった		
5. 外注先の廃業・移転・閉鎖	6. 人手不足で自社だけでは対応できなくなった		
7. 受注の増加に対応するため	8. 生産調整	9. 外注先を分散化	10. 内製化を進めた
11. 自社の工程を外注に切り替えた	12. 外注先の数や相手は変化していない		
13. その他(	)		

問11. 顧客向け製品における貴社の企画・開発の関与について、下記より1つ選択してください。

1. 製品のほとんどを自社で企画・開発している	2. 製品の一部を自社で企画・開発している
3. 顧客製品の企画・開発に関わっている	4. 顧客の指示に基づき生産・加工している
5. その他()	

問12. 貴社の活動における、この5年間の主な取り組みについて、該当するものをすべて選択してください。

1. 製造現場における改善活動	2. 既存技術の見直しや新技術の導入・開発	3. 部品・資材調達先の多様化	
4. 人件費など固定的なコストの削減	5. 物流の見直し・改善	6. 生産拠点の移転	7. 新商品の取扱い拡大
8. 新たな販売先の開拓	9. 受注形態の見直し	10. 従来とは異なる分野への転換	
11. 特に対策は講じていない	12. その他()		

問13. 貴社がこれまで受賞した表彰の内容・効果について、お答えください。

(1) これまで受賞した表彰制度、取得した認証制度について、ご記入ください。

(2) 受賞した表彰制度や取得した認証制度の効果について、該当するものをすべて選択してください。

1. 売上が向上した 2. 取引先が増加した 3. 社員の意識が向上した 4. 採用に好影響があった
5. メディアからの問合せがあった 6. 他社・支援機関からの問合せが増えた 7. 融資が受けやすくなった
8. 公的支援(補助金等)が受けやすくなった 9. これまで受賞した賞などはない 10. その他()

問14. 貴社の新技術や新製品、新分野進出などの実績と今後の見通しについて、項目ごとに1つ選択してください。

	過去5年間の取り組み		今後の見通し		
(回答例) ○○○○○	1. あり	2. なし	1. あり	2. 未定	3. なし
新しい技術の開発・導入	1. あり	2. なし	1. あり	2. 未定	3. なし
従来分野で新製品の開発	1. あり	2. なし	1. あり	2. 未定	3. なし
新しい分野への進出	1. あり	2. なし	1. あり	2. 未定	3. なし

問15. 「新しい技術の開発・導入」「新製品の開発」にあたっての課題について、該当するものをすべて選択してください。

1. 設備が足りない 2. 資金が足りない 3. 人手が足りない 4. 公的な支援(補助金等)が不足している
5. 支援・相談の相手を見つけることができない 6. 連携・共同で研究開発する相手を見つけることができない
7. 何から取り組んでよいのかわからない 8. 新たな取り組みへの関心・契機がない
9. 特に問題はない 10. その他()

問16. 「新しい分野への進出」について、お答えください。

(1) 既に、着手している分野、取り組んでいる分野について、該当するものをすべて選択してください。

1. 水素・燃料アンモニア 2. 自動車・蓄電池 3. 半導体・情報通信 4. 医療・健康・介護 5. 航空・宇宙
6. 環境・エネルギー(洋上風力・太陽光・地熱産業・カーボンリサイクル等) 7. 船舶・海洋 8. 食料・農林水産業
9. 資源循環関連 10. 物流・土木・住宅 11. ロボット・産業機械 12. 特になし
13. その他、ものづくり以外の分野があればご記入ください()

(2) 今後の事業展開において、関心のある分野について、該当するものをすべて選択してください。

1. 水素・燃料アンモニア 2. 自動車・蓄電池 3. 半導体・情報通信 4. 医療・健康・介護 5. 航空・宇宙
6. 環境・エネルギー(洋上風力・太陽光・地熱産業・カーボンリサイクル等) 7. 船舶・海洋 8. 食料・農林水産業
9. 資源循環関連 10. 物流・土木・住宅 11. ロボット・産業機械 12. 特になし
13. その他、ものづくり以外の分野があればご記入ください()

(3) 新しい分野の進出にあたっての課題について、該当するものをすべて選択してください。

1. 市場性 成長性が見極めが困難 2. 情報収集力が不足 3. 製品開発力・商品企画力が不足
4. 事業ノウハウ・ビジネスモデル構築力が不足 5. 販売先の候補が見つからない 6. 営業方法がわからない
7. 業務提携先の確保が困難 8. 既存事業の経営が疎かになる 9. 人材の確保が困難 10. 資金調達が困難
11. 安定的な仕入先の確保が困難 12. 設備の増強・更新が困難 13. 特になし 14. その他()

1. 連携している……………以下(2)(3)へお進みください。

2. 連携していない

(2) 上記、問 17 の連携相手について、該当するものをすべて選択してください。

- (3) 上記、問17の連携目的について、該当するものをすべて選択してください。

1. 現在、活用している……………以下(2)へお進みください
2. 現在活用していないが、今後活用したい……………以下(2)へお進みください。
3. 活用する予定はない

1. 製品企画、開発、設計の強化 2. 生産プロセスの効率化 3. 技能継承 4. 品質管理

5. マーケティング活動の強化 6. その他間接業務の効率化 7. その他()

項 目	選 択 肢				
1.取引先の近さ	1. 良い	2. やや良い	3. ふつう	4. やや悪い	5. 悪い
2.関連産業・企業の集積	1. 良い	2. やや良い	3. ふつう	4. やや悪い	5. 悪い
3.部品等の調達	1. 良い	2. やや良い	3. ふつう	4. やや悪い	5. 悪い
4.マーケット・消費地の近さ	1. 良い	2. やや良い	3. ふつう	4. やや悪い	5. 悪い
5.資源のリサイクル・循環	1. 良い	2. やや良い	3. ふつう	4. やや悪い	5. 悪い
6.交通（道路、鉄道等）	1. 良い	2. やや良い	3. ふつう	4. やや悪い	5. 悪い
7.土地取得	1. 良い	2. やや良い	3. ふつう	4. やや悪い	5. 悪い
8.物流（陸送、海運、空輸等）	1. 良い	2. やや良い	3. ふつう	4. やや悪い	5. 悪い
9.インフラ（電気、工業用水等）	1. 良い	2. やや良い	3. ふつう	4. やや悪い	5. 悪い
10.大学・研究機関との連携	1. 良い	2. やや良い	3. ふつう	4. やや悪い	5. 悪い
11.人材確保	1. 良い	2. やや良い	3. ふつう	4. やや悪い	5. 悪い
12.公的機関の助成制度	1. 良い	2. やや良い	3. ふつう	4. やや悪い	5. 悪い
13.自然災害のリスク	1. 良い	2. やや良い	3. ふつう	4. やや悪い	5. 悪い

緊急時の対策	1. BCP を策定している 2. BCP ではないが社内規定やマニュアルを整備 3. 整備を検討中 4. 策定しておらず、検討もしていない
生産継続のための対策	1. 協力会社あり 2. 協力会社なし

1. 現状維持で行きたい
2. 現在の場所で生産施設を拡張したい
3. 現在の場所で生産施設を縮小したい
4. 当地はそのまま、他の地域で生産施設を拡張したい……………以下(2)へお進みください
5. 他の地域へ移転したい……………以下(2)へお進みください
6. わからない
7. その他()

1. 技術力・研究開発力 2. 新たな製品・サービスの開発力の維持・強化 3. 品質の維持・向上
4. 既存製品・サービスの高付加価値化 5. 小ロット対応 6. 現場改善力（5S・QC・活動など）
7. 短納期対応 8. 設備増強等による供給能力の拡充 9. 営業力・販売力の維持・強化
10. 取引先の拡大 11. IT 活用事例に詳しい人材の採用・育成 12. 熟練技能者の採用・育成
13. 自社ブランドの育成 14. 知的財産権の保護・活用 15. 海外事業展開 16. その他（ ）

1. 受発注先の紹介 2. 成長分野進出支援 3. 新製品開発支援 4. 技術指導等支援 5. 資金繰り支援
6. 表彰・認定制度 7. エ場立地等支援 8. 販路開拓支援 9. 海外進出支援 10. デジタル化支援
11. 人材育成支援 12. 雇用確保支援 13. 省エネ支援 14. 脱炭素化支援 15. 資源リサイクル支援
16. オープンイノベーション 17. スタートアップ企業等とのマッチング 18. 特になし 19. その他()

1. 自社の事業所内で単独で行っている 2. 自社の他の事業所（研究所等） 3. グループ企業
4. 従来からの顧客・ユーザー 5. 協力企業等の地元ネットワーク 6. 地元の業界団体
7. 姫路商工会議所（姫路ものづくり支援センター） 8. 地元の大学・研究機関 9. 域外の大学・研究機関
10. 金融機関 11. コンサルタント 12. 相談相手はいない 13. その他（ ）

問25. ものづくりに関する支援制度等についてお伺いします。それぞれ 1 つ選択してください。

①ものづくり補助金	1. 利用中 2. 利用したい 3. 利用予定なし 4. 知らない
②IT 導入補助金	1. 利用中 2. 利用したい 3. 利用予定なし 4. 知らない
③小規模事業者持続化補助金	1. 利用中 2. 利用したい 3. 利用予定なし 4. 知らない
④姫路市新産業創出支援補助金	1. 利用中 2. 利用したい 3. 利用予定なし 4. 知らない
⑤姫路市ものづくり開発奨励補助金	1. 利用中 2. 利用したい 3. 利用予定なし 4. 知らない
⑥姫路市ものづくり販路拡大支援事業補助金	1. 利用中 2. 利用したい 3. 利用予定なし 4. 知らない
⑦姫路市ものづくり IT 化推進事業補助金	1. 利用中 2. 利用したい 3. 利用予定なし 4. 知らない
⑧公的試験設備の活用（工業技術センター等）	1. 利用中 2. 利用したい 3. 利用予定なし 4. 知らない
⑨大学の産学連携支援窓口の活用	1. 利用中 2. 利用したい 3. 利用予定なし 4. 知らない
⑩姫路ものづくり支援センターの活用	1. 利用中 2. 利用したい 3. 利用予定なし 4. 知らない

問26. ものづくり産業をはじめ、商工会議所・商工会へのご要望等がありましたら、ご自由にご記入ください。

--

アンケート調査は以上で終了です。ご協力、誠にありがとうございました。今後、ご回答いただいた内容をもとに、ご本人様に問い合わせをさせていただく場合がありますので、当アンケート用紙を複写・保存していただきますよう、ご協力をお願いします。

姫 路 商 工 会 議 所

姫 路 経 済 研 究 所

〒670-8505 姫路市下寺町 43 番地

T E L 079 - 223 - 6555

F A X 079 - 222 - 6005